(7) クビチェック（JK）移住地

所在地	バイーヤ州マタ・デ・サンジョアン郡ジュッセリーノ・クビチェック移住地 NUCLEO COLONIAL DE JUSCELINO KUBISTCHEK(J.K), MUNICIPIO DE MATA DE SÃO JOÃO, ESTADO DA BDHIA	
面積	4,900 ha	
経緯	サルバドール市およびフェーラー・デ・サンターナ市を中心とした地域への生鮮食糧の供給，州内農業者の定着を目的として，連邦及び州が共営で創設を計画した移住地であるが，他地域の日本人移住者の優秀な成績を知るに及んで，日本人の優秀な農業技術を公開し，バイア州の農業振興をはかるべく考慮し，日本人の導入を追加計画したものである。 日本人の入植は昭和３３年に始まり，今日までに123世帯が入植したが，道路問題，経営不振等により多く転出した。問題の道路は昭和４４年に整備された。現在５５世帯が入植している。	
自然環境	地形	標高は９０ｍ～１９０ｍ緩やかな起伏のある丘陵地
	地質・土壌	第３紀砂岩母材，褐壌土ないし砂壌土
	植生・林相	林相は厚く，再生疎木林
	気候	最高平均気温２８.３℃　最低平均気温２２.２℃ 雨期３～８月　乾期９～２月，平均年間降雨量1,８００mm
社会環境	主要都市への交通手段	移住地よりマタ・デ・サンジョアン市まで6Km，マタ・デ・サンジョアン市～サルバドール市間は鉄道および道路が通じている。道路は舗装され所要時間約２時間。
	市場	サルバドール市（人口150.6万人）が主な市場である。
	地区内道路整備状況	砂利道路および盛土であるが，雨期は道路状況が強度に悪化する。
	電気	１９７９年７月に全域電化済
	飲料水	２０ｍ～３０ｍ掘削すると飲料水が得られるが，殆んどは河川水，湧水を利用している。
	公共施設	
	事業団民営	公民館
	自治体農協等	事務所１，作業所１，診療所１，屠肉処理場１，種鶏場，飼料配給設備設備一式
	その他	地区内に診療所兼病院がある。小学校は地区内４校，中学校はマタ・デ・サンジョアン，高校大学はサルバドール市にあり，学生寮に寄宿して通学している。

入植状況

入植戸数と人員（内地）	年度	33	34	35	36	37	38	39～52	現地入植者	合計	定着数
	戸数	5	49	25	30		1		3	119	55
	人員										253

主なる出身県名	愛媛	長崎	福岡	青森	鹿児島	新潟	宮城	その他県	合計
現戸数	13	6	10	3	3	4	2	14	55

入植世帯数

		入植世帯数 戸数	入植世帯数 人数	農家戸数 戸数	農家戸数 人数
日本人	居住	55	253	55	
	非居住	—	—	—	
	計	55	253	55	

昭和56年9月末現在

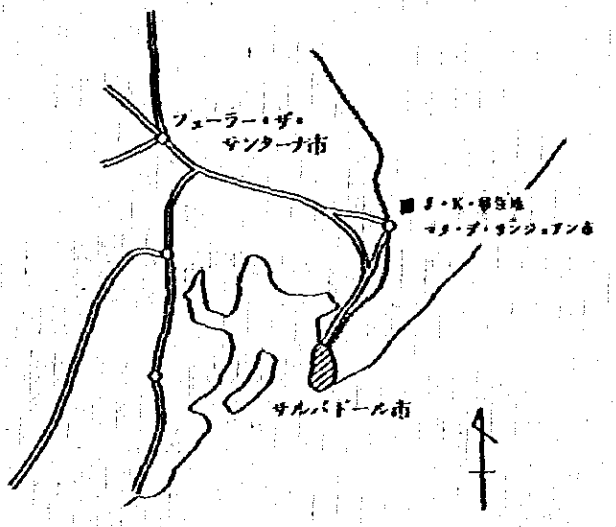
分譲状況

総面積	4,900ha
ロッテ面積	イタピシリカ地区25ha・ルンダ地区20ha
分譲条件および価格	Cr$ 400～500　2年据置　10年分割払（1969年4月現在）
分譲状況	全ロッテ分譲ずみ
地権取得	全戸取得済

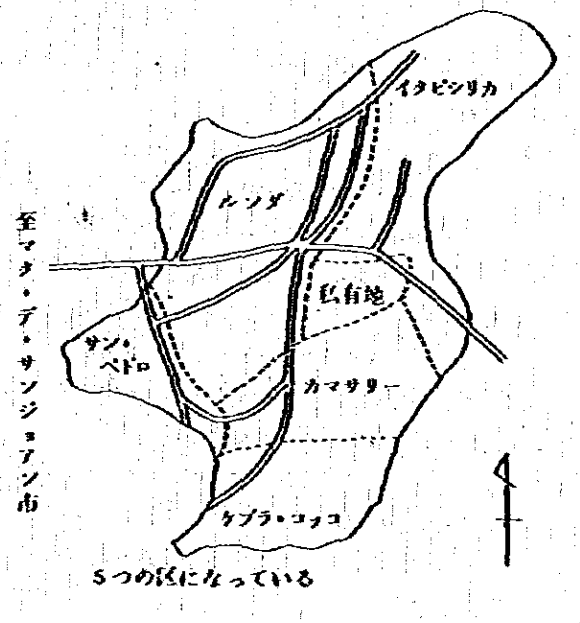
農業

主作目	バラ，キク，キュウリ
形態	バラ，キク，グラジオラス等の花卉栽培を主体にキュウリ，ピーマン，インゲン等の蔬菜等を組み合わせた経営
農機具の普及状況	トラック　0.4台，トラクター　0.1台，駄馬　1.1台
家畜飼養頭数	肉牛　17頭
営農援護機関	
営農指導	事業団レシーフェ支部
金融機関	銀行　（ブラジル銀行，パイーヤ銀行）
主作物取扱機関	仲買業を営む移住者子弟が仲買し，サルバドールに出荷するほかマタ・デ・サン・ジョアン市でも直売する
その他	一時は菜類栽培特にトマトが中心であったため，市場において入植者間の競合となり営農不振であったが，近年では花卉栽培や胡椒を取り入れている。

地区略図


フェーラー・ザ・
サンターナ市
サルバドール市

移住地略図


イタピンリカ
ルンダ
私有地
サン・
ペドロ
カマサリー
ケブラ・コッコ
至マタ・デ・サンジョアン市
5つの区になっている

(8) タペロア移住地

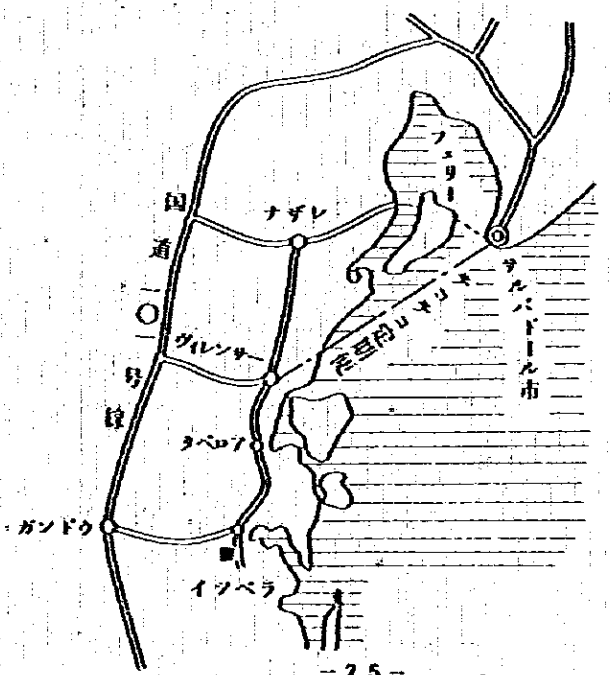
所在地	バイア州タペロア郡 MUNICÍPIO DA TAPEROA, ESTADO DA BAHIA	
面積	1,500ha	
経緯	ペレーン支部管内第1トメアス一移住地に入植していた一部農家が，同移住地に胡椒の病害が大発生したため，新しく胡椒栽培を求めて各地を調査した結果，当移住地と同一自然条件下のインペラ移住地で胡椒，丁字が立派に栽培されているのをみて，第1トメアス一移住者を中心とする転住者のみによって形成された移住地である。 当初胡椒を中心として営農を進めていたが，同地へトメアスから搬入した胡椒の苗の病気から根腐病が大発生し，この為胡椒栽培に見切りをつけ，丁字，カカオ，グァラナ，ハワイマモンに転換し従来の胡椒単作営農から香料料作物と熱帯果樹を取り入れた複合営農を進めている。将来的には香料作物の一大生産地帯の形成が考えられるが，専門知識・技術が不足していること，販売ルートの未整備等から営農指導の必要性が増大している。 現在入植者数は，第1トメアス一移住地からの入植者と他地域からの入植者を加えて，日本人は38戸とブラジル人10数戸が入植し，タペロア混合移住管理委員会を組織し自主的管理体制をとっている。	
自然環境	地形	海岸山脈標高40～180mにあり，水流に恵まれている。
	地質・土壌	埴土，ラトゾールの大型粒状をもつ，土壌構造はさわめてよいが肥沃地でない。
	植生・林相	原生林，再生林あり，林相は相当厚く有用材も含まれている。
	気候	インペラ移住地とほぼ同じ
社会環境	主要都市への交通手段	州都サルバドール市より国道101号線と州道545号分岐点迄250kmは完全舗装，州道545号によるバレンサ市(人口2万人)経由タペロア間24kmは未舗装であるが道路整備は良好である。サルバドール～バレンサ間は1日3～4回のバス便あり。1日4便のエア・タクシーの便もある。
	市場	バレンサ市，サルバドール市が主な市場である。
	地区内道路整備状況	砂利道および盛土である。昭和49年度，州道路局が道路舗装を実施したため，極めて良好．近い将来国道に直結する計画
	電気・飲料水	インペラ発電所から送電されているが，農耕地迄は導入されていない。近い将来バレンサ市より引込みの計画がある。電力および飲料水については，大部分の者がタペロア市内に居住していることから完備している。
	公共施設	

入植戸数と人員（内地）	年度	45	46	47	48	49	50～52	現地入植者	合計	定着数
	戸数							38	38	38
	人員							123	123	123

主なる出身県名	宮城	青森	山形	福岡	大分	北海道	その他県	合計
戸数	12	3	3	3	3	3	11	38

分譲状況	総面積	1,500 ha
	ロッテ面積	30～130 ha
	分譲条件および価格	平均3,000～4,000 Cr$／ha
	分譲可能面積	個人取引による（タペロア移住地は集団化による任意移住地）
	地権取得	全戸取得済
農業	主作目	ガラナ，丁字，パパイヤ
	形態	ガラナ，丁字等香料作物を主体にパパイヤを組み合わせた経営
	農機具の普及状況	トラック 0.6台，動噴 0.4台，脱穀機 0.4
	家畜飼養頭数	
	営農援護期間	
	営農指導	事業団レシーフェ支部 カカオ栽培熱帯農業振興審議会（CEPLAC）
	金融機関	銀行（白銀）

地区略図



その他の主な移住地及びに集団地別概況表

地区名	所在州	経営主体	土地関係	送出戸数	現在戸数	主作物	備考
ナッシンガー	セアラ	任意	交付済	―	15	綿花，コーヒー，柑橘，蔬菜	北伯，南伯からの転住者
R.N.散在	リオ・グランデ・ノルテ	〃	〃	―	3	蔬菜	ブナウ転耕者
ブナウ	〃	ビオ12世財団任意	〃	14	1	米，バナナ，蔬菜類	
パライーバ散在	パライーバ	〃	〃	―	2	蔬菜，マモン	
ペルナンブーコ散在	ペルナンブーコ	〃	〃	―	30	綿花，養豚，蔬菜，花卉	北伯，南伯及びリオ・ポニート，ブナウ転耕者
カピクーバ	〃	米軍民公団		―	1 (1)	蔬菜，花卉，柑橘	南伯より転住者
アラゴアス散在	アラゴアス	任意	個人，借地	―	7	蔬菜	ビウン，ポニート転住者
南バイヤ	バイヤ	〃	個人	―	70	メロン，ヤシ	南伯転住者
サルバドール散在	〃	〃	〃	―	23	蔬菜，柑橘，コーヒー	J・K転耕者および戦前からの移住者

III. リオ・デ・ジャネイロ支部

Ⅲ　リオデジャネイロ支部管内

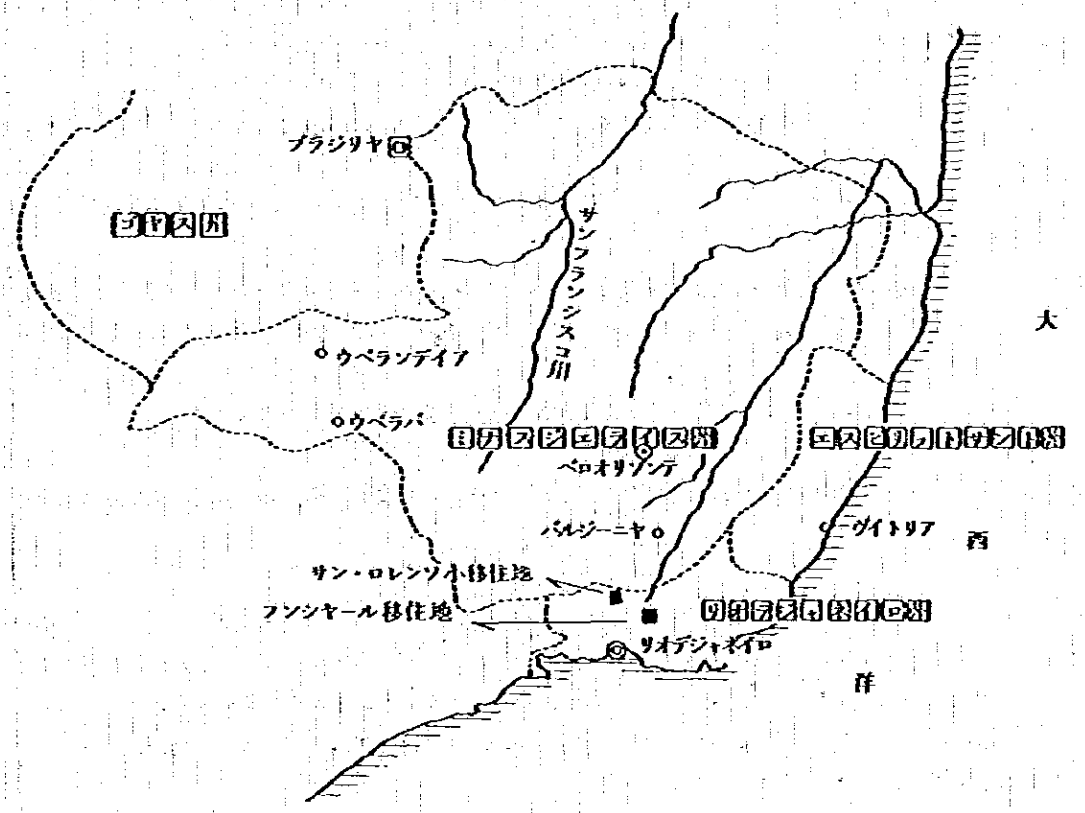
支部機構

リオ・デ・ジャネイロ支部（リオデジャネイロ市）

└ブラジリア出張所（ブラジリア）

管轄州

リオ・デ・ジャネイロ州，グワナバラ州，エスピリット・サント州，ミナス・ジェライス州（除く三角ミナス），ブラジリヤ連邦区，ゴヤス州南部



1　移住地所在地域の概要

概要	面積44,268Km²,人口11,297,636人　州都はリオ・デ・ジャネイロ市 リオ・デ・ジャネイロ州は東部地方海岸に位置する州で，北部はエスピリト・サント，西部はミナス・ジェライス，南部はサンパウロの各州と境界を接している。 地勢は州の中央を縦断するマンチケイラ山脈と南部の海岸山脈が海岸まで押しせまり，全体に500～1500mの高地を形づくっている。マンチケイラ山脈はオルゴンス，タクアーラ，アラクスクルビシャイス，リオ・ブレット，モンテ・ペルデなどいくつかの小山脈に分かれ，ことに西部の山脈中にアグリヤス，ネグラス，プレテレイラ，オルゴンス山脈中にはモウロ・デ・カベソン，ペードラ・アスー，ペードラ・ド・シーノなど，いずれも高さ2,000mを越える高峰が連なりブラジル屈指の高地となっている。しかし，北東部はわずかに平地が見られる。河川はミナス州との州境を流れるパライーバ・ド・スール川（1,058Km）を中心に無数の小河川がある。その主なものは，ムリアエ（290Km），ドイス・リオス（200Km），グランズー（180Km）等である。 また海岸地帯には多くの塩水湖がありその最大のものはフェイア湖（130Km²）である。 気候については，海岸地帯は熱帯性の高温多湿な気候であるが，高地地帯は亜熱帯性の温暖な気候である。
産業	〔農業〕 リオ・デ・ジャネイロ州は気候と地味に加えてリオ・デ・ジャネイロ市という大消費地に恵まれ，早くより農業が盛んである。主な農産物はコーヒー，米，トウモロコシ，サトウキビ，果実，そ菜類などである。 牧畜産も盛んで特に養鶏等は近代設備をとり入れて同州の重要な産業の一つである。 〔鉱業〕 カーボ・フリオ付近には広大な塩田がある。また，大理石，白雲石，金，鉛，黒鉛，石綿等を産出する。 〔工業〕 リオ・デ・ジャネイロ州はブラジルで最も工業の発達した州の一つで，リオ・デ・ジャネイロ市周辺には，あらゆる種類の工場が密集している。ボルタ・レドンダにあるナショナル製鉄所は，ラテンアメリカ最大の規模をもつ，このほかパラマンサ，ハイム，ラナリ，トルクアトの4製鉄所，二つの巨大な造船所，製油所，自動車，石油化学，セルローズ，繊物，金属，機械，皮革，時計，セメント等無数の工場がある。
主要都市	リオ・デ・ジャネイロ市 人口約4,857,000人，リオ・デ・ジャネイロ州の州都，1763年から1960年までブラジルの首都であった。サンパウロとともにブラジルの2大商工業地帯を構成している。ブラジリア連邦政文化，観光，商業の中心で，世界3大美港の一つとして有名である。 同市はポルトガルの航海者ゴンザーロ・コエーリョ（Gonzalo Coelho）が1502年1月1日

主要都市	に発見し，湾口を河口と間違えリオ・デ・ジャネイロ（1月の河）と命名した。1555年から1567年までフランス人がこの地を占領し，これを駆逐するためメン・デ・サ（Men de Sá）が1565年，植民地を建設したのが現在のリオ・デ・ジャネイロ市の始まりである。 キリスト像のあるコルコバード峰，湾口のポン・デ・アスカール（砂糖パンの山）等の奇岩があり，また市内に多くの歴史的建造物があり大西洋に面するコパカバーナ，イパネマの海岸は美しく世界的に有名である。 グァナバラ湾をへだてて，かってのリオ・デ・ジャネイロ州の州都であったニテロイ（Niterói）市があるが，グァナバラ湾横断橋の完成により1975年グァナバラ州とリオ・デ・ジャネイロ州は合併した。

2　移住地の概要

(1) フンシャール移住地

所在地	リオ・デ・ジャネイロ州　カシュエイラス・デ・マカク郡 COLÔNIA FUNCHAL MUNICIPIO DE CACHOEIRAS DE MACACU.ESTADO DO RIO DE JANEIRO リオ・デ・ジャネイロ州リオ・デ・ジャネイロ市の北東１００Km	
面積	1,０１５ha	
経緯	蔬菜，果樹，養鶏等を中心とした都市近郊型の集約農業を行う移住者を受け入れる移住地として，昭和３４年区劣協力事業団の前進である旧移住振興会社が購入した移住地である。 入植は昭和３５年からはじまった。	
自然環境	地形	平坦地と数十米の山地が混在し複雑な地形で，利用できる土地は概れ７０％内外である。
	地質・土壌	台地は壌土ないし砂壌土。低地は粘土質或いは場所によっては砂壌土で石が多い。
	植生・林相	大体再生林，低地の部分に混淆性草木がある。
	気候	乾期５～１０月，雨期　11～4月であるがその区分は不明瞭。 年間平均気温２３.６℃（最高２８.８℃，最低１９.８℃） 年間降雨量約1,８１７mm
社会環境	主要都市への交通手段	カショエイラス・デ・マカク町（人口約1.1万人）まで1km，リオ・デ・ジャネイロまで約８５Km，ノーバ・フリブルゴ市（人口１４万人）陸路５８Km
	市場	大消費都市リオ・デ・ジャネイロ及びニテロイ市を対象としており，立地条件は良好である。
	地区内道路整備状況	土道であるが，雨期でも運行可能
	電気	１９７０年（昭和４５年）電化工事完成，事業団半額負担。
	飲料水	飲料水は各戸１０m以外の井戸を利用し動力ポンプで給水。
	公共施設 事業団保護組合等	小学校　１校　公民館 倉庫　車庫兼宿舎
	その他	中学以上の上級学校及び医療機関は，カショエイラス・デ・マカク町，ニテロイ市およびリオ・デ・ジャネイロ市を利用している。

入植戸数と人員（内地）	年度	36	37	38	39	40~52	現地入植	合計	定着数
	戸数	42	4	1	1		7	55	34
	人員								164

主なる出身県名	北海道	福岡	山口	その他	合計
戸数	11	11	3	9	34

入植世帯数			入植世帯数 戸数	入植世帯数 人数	農家戸数 戸数	農家戸数 人数
	日本人	居住	34	164	34	
		非居住	4	20	2	
		計	38	184	36	
	現地人		15	64	15	

昭和56年9月末現在

分譲状況		
	総積	1,015 ha
	ロッテ面積	1ロッテ11.3 ha
	分譲条件及価格	一括払805,000円 分割払頭金80,5000円4年据置5年分割払 利息12%

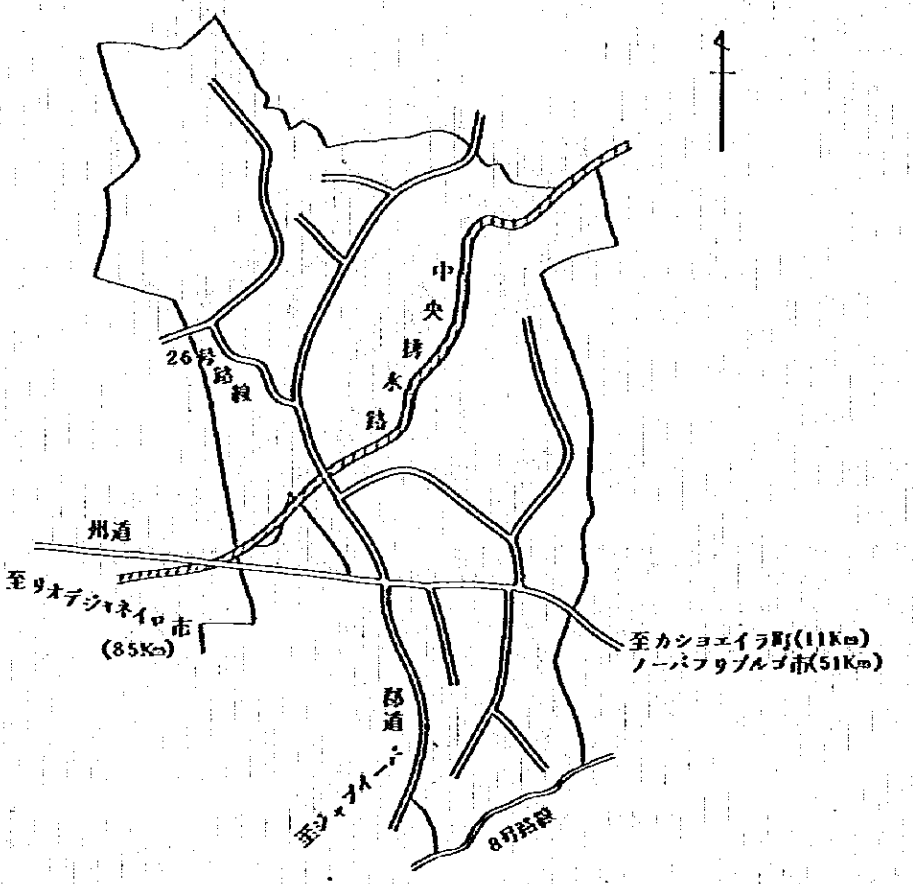
分譲可能面積	分譲済面積	未分譲面積	道路市街地等	除地
	987.8	0	23	4.2

地権取得状況	79ロッテ中 取得75ロッテ 未取得4ロッテ

昭和56年9月末現在

農業		
	主作目	鶏卵，グァバ，レモン，マクラジャー
	形態	養鶏，グァバ，レモン，マクラジャ等果樹の専業農家，およびこれら2部門の複合経営
	農機具の普及状況	耕運機 1.1台 動噴 2.0台
	家畜飼養頭数	肉牛 0.2頭
	営農援護機関	
	営農指導	事業団リオ・デ・ジャネイロ支部およびコチヤ産組の専門技術員
	金融指導	銀行，事業団

移住地略図


中央持永路
26号路線
州道
至リオデジャネイロ市
(85Km)
至カショエイラ町(11Km)
ノーバフリブルゴ市(51Km)
郡道
至シャプイーパ
8月路線

(2) サン・ローレンソ小移住地

所在地	リオ・デ・ジャネイロ州ノーバ・フリブルゴ郡カンポ・コエーリョ地区，及びサン・ローレンソ地区	
面積	168 ha	
経緯	雇用，借地，分営農の独立を目的として設定された，ブラジルで最初の小移住地である。昭和50年より入植が始まった。	
自然環境	標高	1,100m～1,200m
	地形	海岸山脈の山腹に位置し，全体的には移住地入口より中心部までは平たんな地形をなし，先に進むに従い急な傾斜となる。前方に標高約2,000mの山岳を見る。
	地質・土壌	表土はやゝ黒色を呈し，可成りの有機質を含み肥沃である。
	植生	平たん部は放草原野，丘陵部は原生林
	気候	気温0℃～30℃，年間雨量約1,500mm高地であり，南緯22°であっても可成り涼冷地である。近隣はリオ・デ・ジャネイロの避暑地として有名である。排水・平たん地は降雨が滞水することがある。
社会環境	主要都市への交通手段	ノーバ・フリブルゴまでの交通は至便であるが，ノーバ・フリブルゴ～小移住地間（40km）は定期バスが日に2回運行しているが主に自家用車を使用している。
	地区内道路整備状況	土道である。雨期には通行に困難を来たすこともある。
	電気	自家発電
	飲料水	井戸を利用（5～10m）
	公共施設	小移住地区近辺にはなく，全ての公共施設に恵まれているノーバ・フリブルゴに依存している。

入植戸数と人員（内訳）

年度	50	51	52	計
戸数	3	3	0	6
人員				

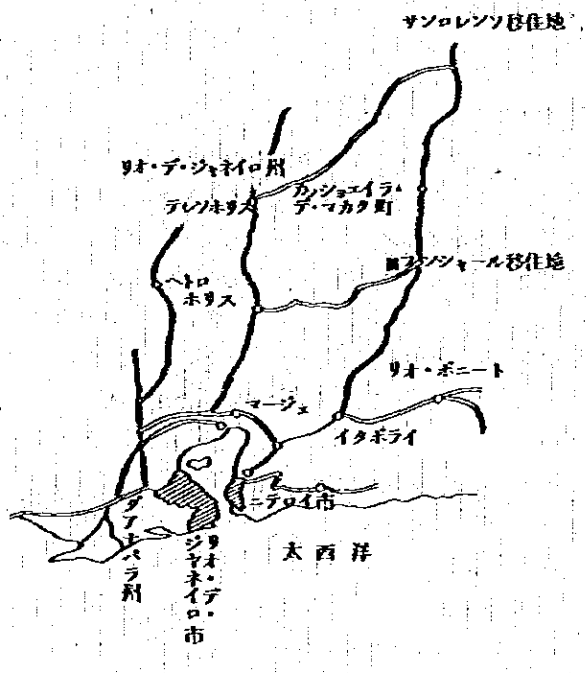
総て，現地入植　日本国籍3，日系2，外1

昭和56年3月末現在

分譲状	総面積	168 ha
	ロッテ面積	27.9 ha
	分譲条件及価格	一括払4,007,667円　分割払頭金400,700円3年据置　5年分割払利息12%

況	分　譲　状　況	全区分譲済
	地 権 取 得 状 況	全戸取得済
		昭和５６年９月末現在

地区略図



VI. サン・パウロ支部

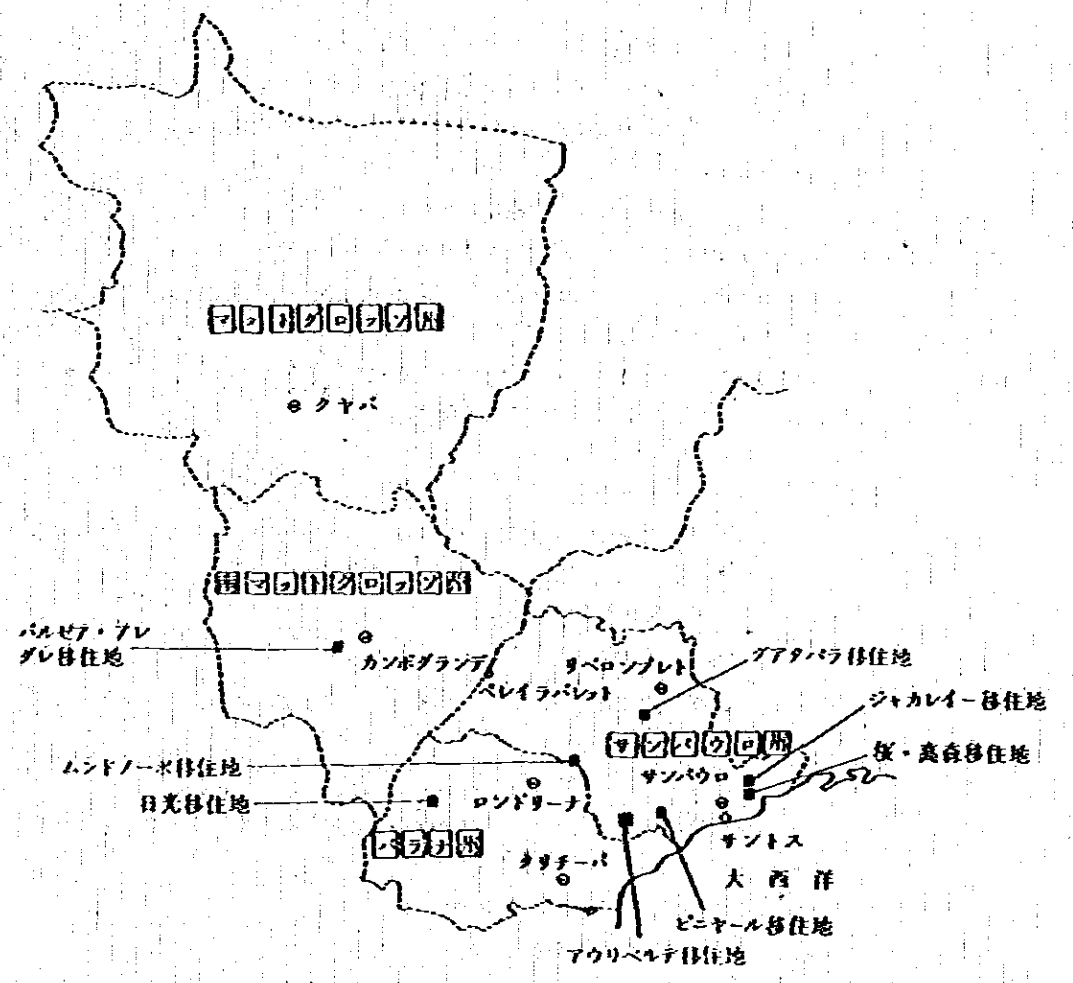
Ⅳ　サン・パウロ支部

支部機構

サンパウロ支部（サンパウロ市）――グァタパラ事業所（グァタパラ移住地内）
　　└パルゼア・アレグレ事業所（パルゼア・アレグレ移住地内）
　　└――クリチーバ支所（クリチーバ市）

管轄州

サン・パウロ州，パラナ州，南マット・グロッソ州，マット・グロッソ州，ミナス・ジェライス州の一部（三角ミナス）



1　移住地所在地域の概要

(1)　南マット・グロッソ州の概要

州移住内地	パルセア・ブレグレ
概要	人口　1,370,333，面積　350,548Km²，人口増加率（70～80）3.19 南マットグロッソ州は'79年1月にマットグロッソ州より分離独立した。全土に占める割合は4.2%，人口密度は3.9人／ha（80年）である。 中西部地区に属し，北部はマット・グロッソ州，東部はゴイアス及びミナス・ジェライス州のごく一部，南部はサンパウロ，パラナ州及びパラグアイ国，西部はボリヴィア，パラグアイ国と境界を接している。 地勢は州中央部にて標高約500mのマラカジュ山脈が分れ嶺をなし，これより西部はパラグアイ川，東部はパラナ川方面に緩傾斜している。 西部にはアマンバイ山脈がパラグアイ国境に接して南下している。西北部にはパラグアイ川及びその支流流域に標高100mのパンタナルと呼ばれる湿原地帯が広がっており毎年雨期には氾濫する。 東西両側を流れるパラナ，パラグアイ川は航行の便があり，またパラナ川にはジュビアー，ウルブンガの2大発電所が設けられている。 気候は熱帯サバンナに属し，全体に高温多湿で州都のカンポ・グランデ（標高542m）における年平均気温は22.4℃最高月31.1℃（10月）最低月14.8℃（7月）年平均湿度71%である。3～8月が乾期，9～2月が雨期となって殆り特に12月に降雨が多い。年平均降雨量は1827.1mmである。 パラグアイ川沿いのコルンバー（標高116m）で年平均25.1℃最高月（12月）27.4℃最低月（7月）21.4℃平均湿度73%。パラナ州沿いのトレス・ラゴアス（標高313m）では年平均23.1℃，最高月25.8℃（12月），最低月18.8℃（7月），年平均湿度75%となっている。
産業	〔農業〕 西北部のパンタナル及び南部地方では牧畜が盛んで，'79年度生産高は第三位（全国比7.9%）である。その他南部地方では稲作が盛んで米，大豆，南京豆，綿花，トウモロコシ，マンジョカ，コーヒー等が主作物である。 〔工業〕 カンポ・グランデを中心に殺分の発展が見られる。主なもの工業生産物は鋼鉄，セメント，石灰，等である。 〔鉱業〕 コルンバ附近のワルクンに豊富な鉄鉱及びマンガン鉱がありすでに採掘が行なわれている。
	カンポ・グランデ市 南マット・グロッソ州州都で人口282,844人。同市の創立は1889年8月で，農畜産物の集散地であり近郊地方が発展するにつれて人口が増加し，1970年頃から急速な発展を遂げ'79年1月から州都となった。

(2) サン・パウロ州の概要

移住地内主要地	ジャカレイ，グァタパラ，ピニヤール，ムンド・ノーボ 桜・高森，アウリベルデ
概要	面積　247,898km² 人口 25,040,698人　（人口密度　101.25） 増加率348（'70～'80年） サンパウロ州は南部地方に位置するブラジルの代表的な州の一つで北部はミナス・ジェライス，リオ・デ・ジェネイロ，西部は南マッド・グロッソ，南部はパラナの各州と境界を接し，東部は大西洋に面している。 地勢は東部海岸に沿ってマール山脈が横断し，東部沿は標高500～1000mの高地を形成し，パラナ川流域では標高400m内外の中高の台地となっている。マール山脈は海岸に押しせまり標高1,000mを越える山脈がそびえ立っている。このマール山脈と平行してミナス・ジェライス州との境にはマンチケイラ山脈が横たわり，部分的に1500m以上の高地を形成している。この中にあるカンポス・ジョルドンは標高1740m，ブラジルの最も高所にある都市の一つである。サンパウロ州の河川の多くは，こうした地勢のため海岸側から奥地へ向かって流れるという一見逆の現象が見られる。西部のパラナ川にそそぐ主な河川にはチエテ（1112km），ペインェ（500km）等々があり南部海岸を流れるものにはイグアッペがある。パライーバ川は一度西流，グァラレーマ附近にて反転東行してリオ・デ・ジェイロ州北部から大西洋にそそぐ。 これら河川は航行ともに発電にも利用されチェテ川だけでも大小10ケ所以上の発電所が設けられている。 地質は大部分が二畳紀及び三畳紀系の花崗岩石層で砂岩，変岩，石灰岩などの入りまじった二畳が最も広い部分を占め，玄武岩，輝緑岩より成る三畳紀系は主に北部にあらわれており，これからできた土壌テーラ・ロッシャは肥沃で知られ，農耕に適している。マール山脈及びマンチケイラ山脈は主として，片麻岩より成り太古代（約10億年前）の造陸運動でできたものと見られる。 気候は，州南部を南回帰線が横切り全体的に亜熱帯性で温暖であるが，東部の高原地帯に比べ西部のパラナ川沿岸地方での気温はかなり高い。 州都サンパウロにおける年間平均気温は18℃，最高月（2月）22.3℃，最低月（7月）14.3℃で年間を通じ気温差は8℃，四季の変化がはっきり感じられる。夏期最高気温は35℃を越えることも珍しくなく，冬期にはときどき霜を見ることがあるが結氷することは殆んどない。
産業	〔農業〕 サンパウロ州の農業はコーヒー栽培が勃興するまで，ほとんど見るべきものがなかったがコーヒー産業の発展とこれにともなう商工業の進歩によって，たちまち農業の大中心地となった。コーヒーの生産量は一時パラナ州やミナス・ジェライス州に第一位をゆずったが，現在は第一位である。 現在，主な農産物は綿花米，トウモロコシ，豆，落花生等がある。 また，農業における日系人の功績は大きく，日系人により開発栽培されている作物も少くない。 農業と並行して牧畜養鶏も盛んで，サンパウロ市近郊では乳牛の飼育が盛んである。養鶏は日系人が中心となり，鶏卵の生産高は全国最高となっている。

	〔鉱業〕 大量の燐灰石及び白質石を産するほか燐鉱，鉛鉱，石綿，ボーキサイトなどを産する。 〔工業〕 サンパウロ州はブラジルで最も工業の発達した州で，ことにサンパウロ市とその付近には鉄鋼，自動車，機械，化学，繊維，食品などあらゆる種類の工場が密集し，ラテン・アメリカ最大の工業地帯を作り出している。
主要都市	サンパウロ市 人口703.4万人（１９８０年）　サンパウロ州の州都，１９５４年１月２５日マヌエル・デ・ノブレガ，ジョセ・デ・アンシェッタ等イエズス修道士会によって創設せられたブラジル第一の都市で，海抜８００の高原にある。 ブラジル経済の中心であり，自動車工業を始め各種の近代工業が付近に集中しており南米で最も発展の速度の速い都市といわれる。 日系人数も多く日本からの進出商社，企業も多い。 サントス市 人口４１.１万人（１９８０年），サン・パウロの門戸をなし，ブラジル最大の輸出入港でコーヒー積出港として世界的に有名である。港は外海から屈曲したグァルジャ水道を約5kmのぼった奥にある。 対外のサン・ビセンテ（São Vicente）は１５３２年建設されたブラジル最古の植民地であるが現在は海水浴客を対象とする観光地ともなっている。

(3) パラナ州の概要

州内の移住地	日 光
概要	面積 199,060Km²；人口 7,630,466人，人口密度 33.88 増加率 0.96 パラナ州はブラジルの南部地方に属し，北部はサンパウロ州 西部はパラグァイ及びマットグロッソ州 南部はサンタ・カタリーナ州に囲まれ東部は狭く大西洋に面している。 地勢は南部をマール山系，中部をセラール山系が横断しパラナ川流域を除き，全体が500～1000mの高原で部分的には1000mを越える高地がある。 クリチーバにおける標高は900m，ポンタ・グロッサ950m，アプカラーナ870m，グァラプアーバ1116mで最高地はピッコ・ド・モルンビーの1800mである。セラール山系はエスペランサ，ピキリ，カンソーなど無数の小山系に分かれている。河川のほとんどはラ・プラタ河系に属しパラナ河へ流れでる。パラナ河とイグアス川には，それぞれセッチ・ケーダス，イグアスと名付ける巨大な滝がある。これらの河川は航行，発電に利用されている。東部は天然の良港でパラナグァン港がある。 パラナ州の地質は，二畳紀系及び三畳紀系の沈積岩石層と，海岸線の冲積層からなり，特に中西部に広がる三畳紀系の玄武岩台地は世界最大のものでこれからできた土壌テーラ・ロッシャは肥沃で最も農業に適している。 気候は北部地方を除き全体に温帯性で，ブラジルで最も生活に適した地域と言われる。クリチーバにおける年間平均気温は16.2℃，最高月（1月）平均20.1℃，最低月（7月）11.9℃であるが，冬期に氷点下以下になることも珍しくない。南部のパルマスではこれより低く年間平均15.2℃で冬期には降霜，結氷のほかにしばしば降雪をみる。北部地方の気温は南部より高いが同じく冬期にはしばしば降霜を見る。雨量はクリチーバで1,352mm，パルマスで1904mm，全体に1500～2000mmである。9月～3月が雨期で，平均して1月～2月が最も多い。4月～8月は乾期で6月～8月は最も少い。また，中南部高原にはアラウカリア（パラナ松）による独特の植物相が見られ，地方の風光に大きな特徴を与えている。
産業	〔農業〕 パラナ州はブラジル最大の農業推奨地帯で農産物の生産高はサン・パウロ，ミナス州と並び3大州の地位を占めている。主な農産物はコーヒー，米，トウモロコシ，綿花，フェジョン等があげられる。 また牧畜業も最近盛んになりつつある。 〔鉱業〕 パラナ州には豊富な炭鉱，鉄鉱，鉛鉱があるほか，金，マンガン，ダイヤ，硫黄等を産出する。 〔工業〕 パラナ州の工業は近年急速な発展を見せている。政府はパラナ経済開発公社（CODEPAR）を設立し，工業の開発・促進に力を注いでおり，州内には製紙，紡績，機械，セメント，食品，皮革，製油などの大工場が次々と建設されている。中でも，モンテ・アレグレのクラビン製紙会社は南米最大の規模をもつ。

主要都市	クリチーバ市 パラナ州政府の所在地で人口１０８万人，東部高原に位置し標高 900 m，１６５４年に創設され，１８５４年首府となった。詩人エルメス・フォンテスにより微笑の町（Cid de Sorriso）と名付けられ優雅な雰囲気に満ちた近代都市である。パラナ州の経済的発展に伴い急速に発展した。

2　移住地の概要

(1)　ジャカレイ移住地

所在地	サン・パウロ州ジャカレイ郡 DOLONIA, JACAREÍ, MUNICÍPIO DE JACAREÍ, ESTADO DE SÃO PAULO 州都サン，パウロ市より67km	
面積	613ha	
経緯	蔬菜，果樹，養鶏等を中心とした近郊農業を行う移住者の受入地として，昭和34年に旧移住振興会社が取得・造成した移住地である。移住者の受入れは昭和35年からはじまった。	
自然環境	地形	北部および南東部に40～130mの丘陵がある。この丘陵に狭まれた中央部は盆地でパラテイ河が貫流している。標高530～570
	地質・土壌	丘陵地：花崗岩系，砂壌土および壌土 低地：沖積性埴壌土
	植生・林相	丘陵地，果樹園，低地は蔬菜用地
	気候	年平均気温　19.5℃ 年間降雨量　1215.9mm 乾期4～9月　雨期10～3月　年により降　あり
社会環境	主要都市への交通手段	移住地入口から各都市への道路は完全舗装。 バス便はひんぱんで，サン・パウロまでの所要時間は1時間半。 ジャカレイ市人口10.4万人，8km。サンパウロ市人口703.4万人，67km モジ・ダス・クルーセス市人口　12.2万人，40km。
	市場	サントパウロ市およびリオ・デ・ジャネイロ市の青果市場等。
	地区内道路整備状況	昭和56年度に事業団援助により道路整備を行ない良好となった。
	電気	昭和46年度（実行は昭和47年）事業団援助により電化
	飲料水	素堀井戸で水質は良好である。
	公共施設	公民館1
	事業団援護	小学校1校，教員宿舎
	その他	中学，高校，病院等ジャカレー市を利用している。

入植戸数と人員（内地）	年度	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44
	戸数	33	2					1			
	人員	176	9					4			
	年度	45	46	47	48	49	50～52	現地人植	合計	定着数	
	戸数					1		32	69	49	
	人員					6		165	360	242	

主なる出身地名	長野	熊本	広島	山形	その他	合計
戸数	6	4	4	2	33	49

入植世帯数	ジャカレイ		入植世帯数 戸数	入植世帯数 人数	農家戸数 戸数	農家戸数 人数
	日本人	居住	49	242	46	
		非居住	5	22	0	
		計	54	264	46	
	現地人		5	20	1	

（昭和56年9月30日現在）

分譲状況		
	総面積	613 ha
	ロッテ面積	5.9～8.2 ha（平均6 ha）
	分譲条件及び価格	一括払並びに分割払い 分割払いは頭金10％以上4年据置5年均等払い。但し土地代金額について全額年12％の利息を加算する。 1ロッテ（標準6 ha）860,000円相当賃貸
	分譲可能面積	561 ha（87ロッテ）

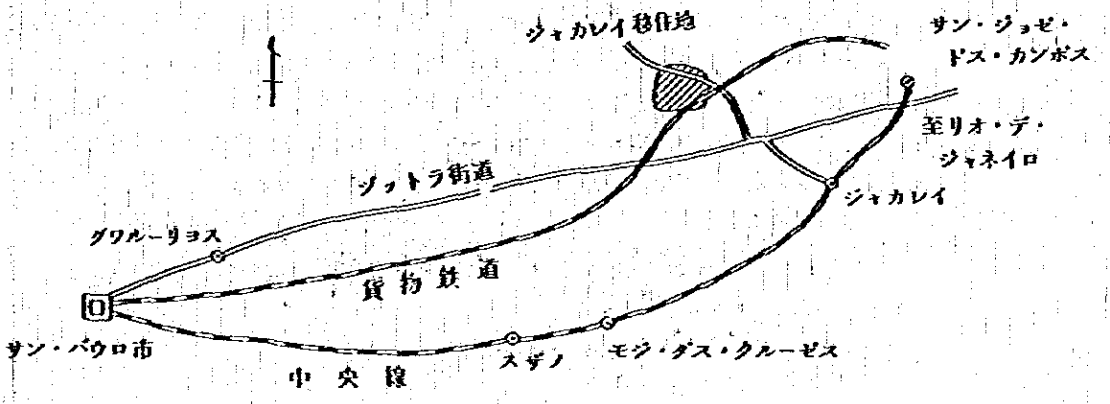
分譲状況	分譲済面積	未分譲面積	道路市街地等移用地	除地
	561	0	25	27

	土地権取得	87ロッテ中取得済80ロッテ，未取得7ロッテ 昭和56年10月現在

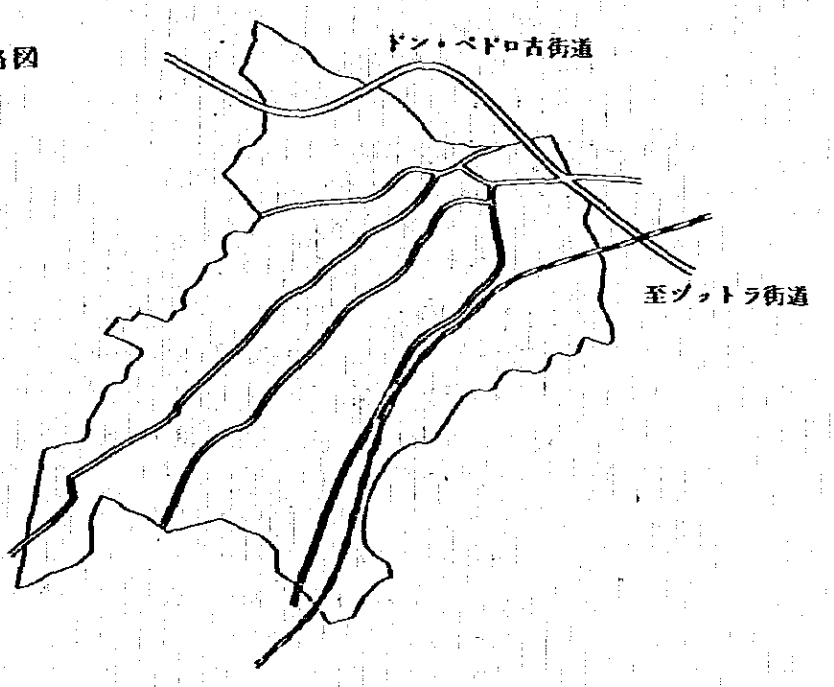
農業		
	主作目	養鶏，花卉（バラ，キク，グラジオラス，マリ）
	形態	養鶏，果樹，花卉を主体とした都市近郊型農業
	農機具の普及状況（昭和54年度）	トラクター 0.6台，トラック 0.5台，耕運機 0.6台
	家畜飼養頭数（昭和54年度）	豚 8頭

営農援護機関	
営農指導	コチア産業組合
金融機関	銀行，事業団，組合
農産物販売取扱機関	コチア産業組合

地区略図



移住地略図



(2) グァタパラ移住地

所在地	サン・パウロ州リベロン・プレット郡 NUCLEO COLONIAL GUATAPARA, RIBEIRÃO PRETO, ESTADO DO SAO PAULO	
面積	7,294 ha	
経緯	当初，全国拓植農協連が山形，茨城，長野，岡山，山口，島根，佐賀の7県（各県拓連）から資金的協力を得，コチア産組と協約してグァタパラ耕地の一部を購入することとして，旧移住振興会社に代理取得を依頼した。その後，造成，分譲に関するすべての事業を移住振興会社が行うことになり，全拓連，コチア産組はそれぞれ日本国内と伯国内でのあっせんおよび指導，生産物の販売等で協力することとなった。移住は昭和36年から開始されたが，移住者は当初前記7県からあっせんされた。 （後全国対象にあっせんが行なわれたが7県以外からの内地移住者はない） 営農は低地を利用しての水田および蔬菜作と，丘地を利用しての畑作，養作栽培を予定したが，必ずしも順調に進展せず，現在では営農型態が変り養豚，養蚕，果樹の導入がはかられ，これらの組み合わせで進められている。	
自然環境	地形	約60%が大波状形丘地，40%がモジグワス河の低地である。 標高510～581m
	地質・土壌	丘地は輝緑岩および砂岩の風化土壌より成るテーラロシア，ミストラーダ PH 4～4.5 低地は黒泥土および泥炭土（強酸性）部分的に白色砂漠土。
	植生・林相	丘地 小灌木林または草地 低地 河に沿って原生林密生
	気候	年平均気温22.6℃ 平均最高気温31.8℃ 平均最低気温13.3℃ 年間雨量1128mm 雨期10月～3月 乾期4月～9月
社会環境	主要都市への交通手段	移住地～リベイロン・プレット市間 急行バス等頻繁 所要時間1時間 リベイロン・プレット～サン・パウロ市間 急行バス等頻繁 所要時間5時間 グアタパラ町～サンパウロ市間 鉄道 約7時間 (1) グアタパラ町 人口約2.5千人 陸路，距離12km 無舗装であるが雨天通行可 (2) リベイロン・プレット市 人口約301万人 陸路35km サン・パウロ州北部の中心都市 (3) アララクアラ市 人口約7.7万人 陸路35km 果樹加工工場など多い

社会環境		(4) サン・カルロス市 人口約10.9万人 陸路45Km 大学が多い (5) リオ・クラーロ市 人口約10.3万人 陸路100Km (6) サン・パウロ市 人口約703.4万人 陸路285Km 以上(2)以下は各都市間完全舗装
	市場	サン・パウロ市，リベィロン・プレット市，その他周辺の各都市 主として共同出荷であるが一部個人出荷および庭先販売
	地区内道路整備状況	総て土道である。状態は普通。 交換分合後の丘陵道路が整備されていない。 低地道路は，雨期劣悪となる。
	電気	昭和44年事業団援助により電化完成。 その後交換分合により移転した丘陵の一部は未電化。
	飲料水	主として自家用井戸（15m位）による。一部共同簡易水道。 公共施設用水は深井戸（120m位）昭和45年度事業団援助により建設
	公共施設 事業団援護	診療所医師は常駐していない，グァタパラ町の病院より定期的に医師が来ており，これに対し，事業団は特約医謝金を出している。小学校1校，警察官派出所，公民館
	組合等	コチア産組事務所，販売所，飼料配合所，精米所，野球場 全拓連農場並びに各種建物施設
	その他	歯科医は週に一回，リベロン・プレット市より往診している。 隣接農場（ファゼンダ・グァタパラ）には医師が常駐している。 中学以上の上級学校は リベィロン・プレット市に通学。

入植戸数と人員（内訳）

年度	36	37	38	39	40	41	42	43	44
戸数	16	26	40	32	1				
人員	83	135	210	146	5				

年度	45	46	47	48～52	現地入植	合計	定着数
戸数			11		36	162	119
人員			48		178	805	617

主なる出身県名	茨城	山形	長野	島根	岡山	山口	佐賀	その他	合計
戸数	30	24	18	16		6	5	6	119

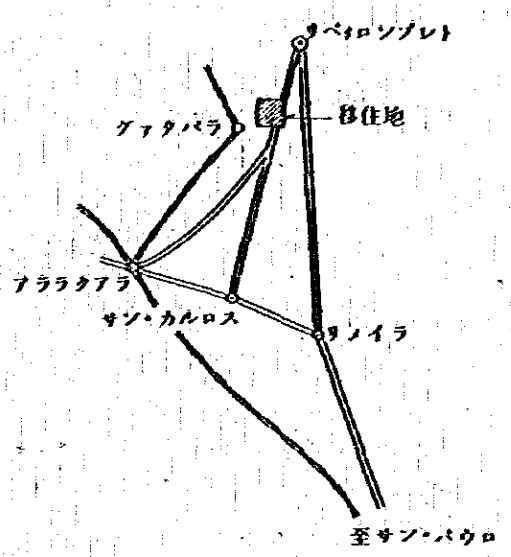
入植世帯数			入植世帯数 戸数	入植世帯数 人数	農家戸数 戸数	農家戸数 人数
入植世帯数	日本人	居住	119	617	115	
		非居住	4	22	0	
		計	123	639	115	
	現地人		1	3	0	

昭和55年3月末現在

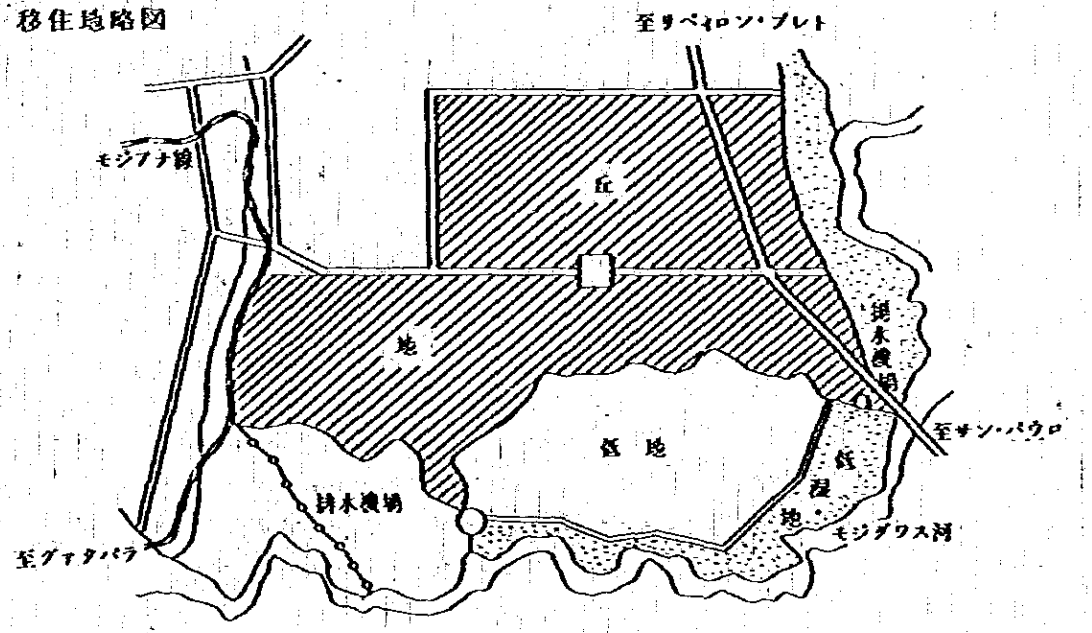
分譲状況	総面積	7,294ha
	ロッテ面積	低地3ha　丘地6ha（雑作）　2ha（柑橘）　1.5ha（宅地）
	分譲条件及び価格	一括払及び分割払（頭金10%以上残額14年据置5年払，利息12%） 150万円 交換分合後　低地　3ha　600,000円（低地A級） 低地　3ha　300,000円（低地B級） 丘地　6ha　506,400円（雑作地） 丘地　2ha　168,800円（柑橘地） 丘地　1.5ha　225,000円（宅地電化地区） 丘地　1.5ha　126,000円（宅地非電化地区）
	分譲可能面積	4,994ha（1,236ロッテ，全拓連分譲地750ha含）
	分譲状況	分譲済面積 4,404 / 未分譲面積 590 / 道路市街地等利用地 541 / 残地 1,759
	地権取得	1,066ロッテ中　取得済629ロッテ，申請中0ロッテ　未取得437ロッテ 昭和56年10月現在
農業	主作目	鶏卵，マユ，水稲
	形態	養鶏，養蚕，及び米作の専業及びこれらを組み合わせた営農
	農機具の普及状況	トラクター1.2台，トラック0.1台，動噴0.5台
	家畜飼養頭数	豚6.0頭
	営農援護機関	
	営農指導	事業団サン・パウロ支部及び同支部グァタパラ事業所。 カンピーナス（200Km）ピラシカーバ大等研究機関，並びにコチプ産業組合，ブラ拓製糸等
	金融機関	銀行，事業団，組合
	主作物の販売取扱機関	鶏卵　コチプ産業組合 マユ　ブラ拓製糸ミナス・ミルク 果樹　各種加工場　米　庭先販売

農業	その他	入植当初，営農は低地を利用しての水田及び栽菜作と丘地を利用しての樹園，畑作栽培を予定したが，必ずも順調に進展せず，現在は養鶏，養蚕及び稲作のいわゆる三白農業を3本柱として進められている。

地区略図



移住地略図



(3) ピニャール移住地

所在地	サン・パウロ州サン・ミゲル・アルカンジョ郡 FAZENDA DO PINHAL MUNICIPIO DE SÃO MIGUEL ARCAMJO, ESTADO DE SÃO PAULO	
面積	755 ha	
経緯	蔬菜，果樹，養鶏を中心とした近郊農業を行う移住者の受入地として，昭和37年国移住振興会社が取得，造成した移住地である。この移住地の指導には事業団の依頼を受けて南伯産業組合中央会があたっている。	
自然環境	地形	緩波状形，丘陵部はやゝ平坦その他はゆるやかな傾斜（5～7°）標高660～735 m。 小川数本あり。
	地質・土壌	頁岩を母材とする土壌で植壌土が主体。丘陵部にテーラ・ロッシャ系の土壌が部分的にある。
	植生・林相	40%が再生林，20%が潅木林，40%が焼地および放牧地。
	気候	年平均気温18.1℃ 平均最高気温26.9℃　平均最低気温7.2℃ 年間雨量1,293 mm 雨期12～4月　乾期5～11月
社会環境	主要都市への交通手段	移住地～各都市間　バス便頻繁 サンパウロ市より国道経由で81年アスファルトが開通した。 所要時間　車で2時間半，バスで4時間。 サン・パウロ市　人口約　703.4万人　陸路　163Km イタペチニンガ市　〃　6.1万人　〃　60Km ソロカバ市　〃　25.5万人　〃　100Km ピエダーデ市　〃　1.3万人　〃　80Km ピラール・ド・スール　〃　8千人　〃　22Km サン・ミゲール・アルカンジョ市　〃　8千人　陸路約　20Km
	市場	主としてサン・パウロ市，その他近隣都市
	地区内道路整備状況	全部土道であるが，80年事業団補助により道路整備され良好となった。
	電気	昭和45年度事業団補助により電化
	飲料水	各戸共架井戸で良好 公共用地飲料水は昭和49年事業団補助により200 mの深井戸架設。
	公共施設	

	事業団長議	移住地内に医療施設はないが最も近い町ピラール・ド・スール市並びにサン・ミゲール・アルカンジョ市に事業団特約医がいる。また2，3の病院もある。 教員宿舎，倉庫，公共用地深井戸
	組合等	組合事務所並びに倉庫
	その他	小学校1校，日語学校1校 中学校へはピラール・ド・スール市もしくはサン・ミゲール・アルカンジョ市へバス通学。

入植状況

入植戸数と人員（内地）	年度	昭和37	38	39	40	41	42	43	44
	戸数	3	7	4	3	1			
	人員	14	31	23	11	3			
	年度	45	46	47	48	49～52	現地入植者	合計	定着数
	戸数						55	73	43
	人員						215	297	228

主なる出身県名	福井県	富山県	福島県	千葉県	その他	合計
戸数	17	3	3	2	18	43

昭和53年10月現在

入植世帯数

ピニャール		入植世帯数 戸数	入植世帯数 人数	農家戸数 戸数	農家戸数 人数
日本人	居住	55	325	55	
	非居住				
	計	55	325	55	
現地人					

昭和56年9月30日現在

分譲状況

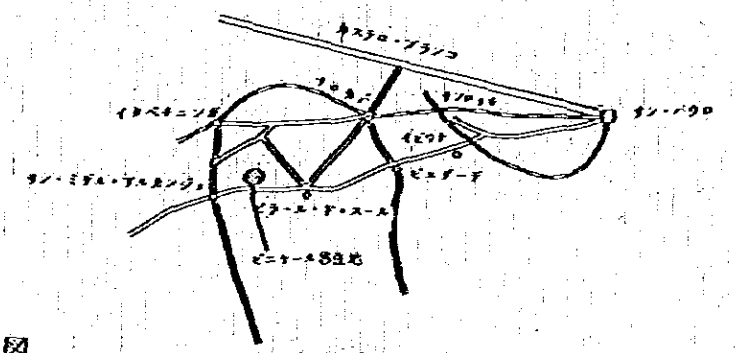
総面積	755ha
ロッテ面積	1ロッテ 10.5～12.4ha平均12ha
分譲条件及価格	一括払並びに分割払い 分割払い頭金10%以上4年据置5年均等払い。但し土地代金額について全期間年12%の利息を加算する。 1ロッテ（標準12ha） 657,000円相当約賃貸
分譲可能面積	727ha（60ロッテ）

分譲状況	分譲済面積	未分譲面積	道路市街地等利用地	除地
	727	0	28	0

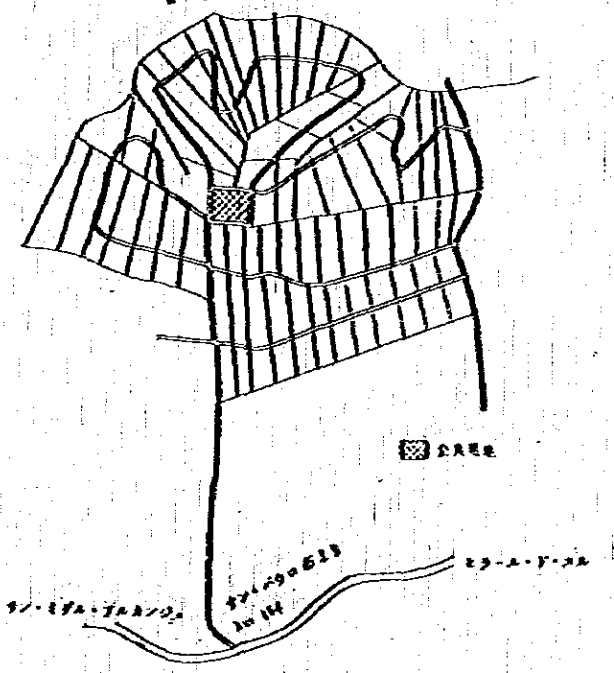
地権取得	60ロッテ中取得済60ロッテ，申請中0ロッテ，未取得0ロッテ 昭和56年10月現在

主作目	ブドウ，トマト，ニンジン
形態	果樹（イタリアブドウ及び若干の柑橘，ビワ，リンゴ，カキ）専業農家が殆んどで，一部トマト，ニンジン，フェジョン等蔬菜との組み合わせによる農業
農機具の普及状況	トラクター0.7台　耕運機0.7台　トラック0.3台
家畜飼養頭数	肉牛0.2頭　乳牛0.2頭　豚0.3頭　役馬0.1頭
営農援護機関	
営農指導	南伯産業組合指導部，事業団
金融機関	銀行，事業団
主作物販売取扱機関	南伯産業組合中央会　ビニャール草協

地区略図



移住地略図



(4) ムンド・ノーボ移住地

所在地	サン・パウロ州オウリーニョス郡 BAIRRO MUNDO NOVO, MUNICÍPIO DE OURINHOS, ESTADO DE SÃO PAULO	
面積	239 ha	
経緯	サンパウロ産業組合中央会，傘下のオウリーニョス産業組合が，旧ムンド・ノーボ耕地を買収し，組合員となる日本人移住者を受け入れるために創設した移住地で，移住者は昭和36年および37年に，日本から17世帯現地から7世帯が入植した。	
自然環境	地形	緩傾斜波状地の高台及び緩傾斜の台地　標高420～450m
	地質・土壌	テーラロシアに粘土砂の混じった土，保水力に優れ極めて肥沃
	植生・林相	一部に原始林地帯があるが大部分は既耕地
	気候	年平均気温26℃ 平均最高気温34℃　平均最低気温12℃ 年間雨量1200－1500mm
社会環境	主要都市への交通手段	移住地～オウリーニョス市間　砂利道良好，トラック等 オウリーニョス市～サン・パウロ市間　完全舗装バス，頻繁 所要時間8時間　鉄道1日1便 オウリーニョス市　人口約5.3万人　北東　7Km サン・パウロ市　人口約703.4万人　南東　394Km
	市場	
	地区内道路整備状況	土道であるが良好。
	電気・飲料水	電気・水道共に一応備わっている。
	公共施設	移住地内に日医療施設なし オウリーニョス市に医療施設完備 移住地内に小学校1校 中学校・高校はオウリーニョス市学校

入植戸数と人員（内地）

年度	昭和36	37	38	39	40	41	42	43	44
戸数	8	8							
人員	43	41							

年度	45	46	47	48	現地入植者	合計	定着数
戸数					9	25	16
人員					43	127	74

主なる出身県名	愛媛	北海道	長崎	その他	合計
戸数	3	3	2	8	16

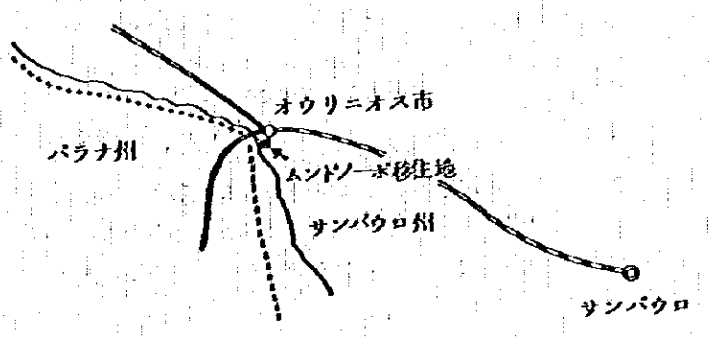
昭和53年10月現在

入植世帯数			入植世帯数		農家戸数	
			戸数	人数	戸数	人数
	日本人	居住	15	92	15	
		非居住				
		計	15	92	15	
	現地人	計	1	5	1	

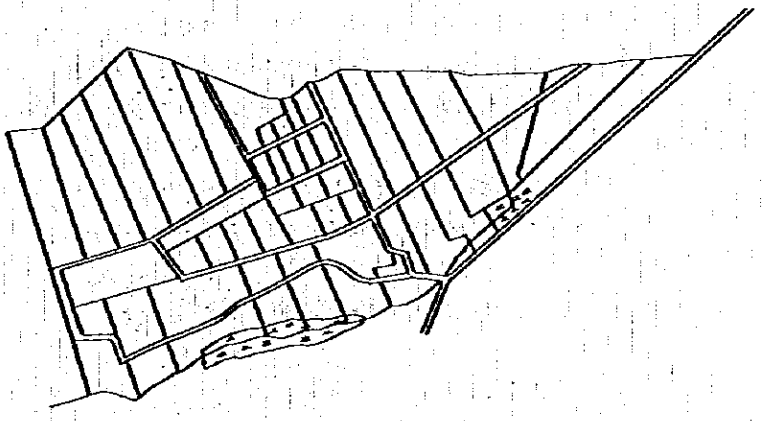
昭和56年9月30日現在

分譲状況	総面積	239ha
	ロッテ面積	10ha
	分譲条件及価格	一括払い　652 Cr$
		分割払い　渡航前に391千円
		2年目より毎年210千円相当物資を3年間に支払う。
	地権取得	全戸取得済
		昭和53年10月現在
農業	主作目	鶏卵，マユ，コーヒー
	形態	鶏卵を主体に養蚕，コーヒー，果樹等を組み合わせた営農を行っている。
	農機具の普及状況	トラクター1.3台，トラック0.8台（昭和54年）
	家畜飼養頭数	豚0.7頭（昭和54年）
	営農援機関	
	営農指導	事業団サン・パウロ支部，事業団功成による専門家が年数回個別指導に当っている。また，サンパウロ産業組合中央会より，時々果樹関係の営農指導員がまわっている。
	金融機関	銀行，事業団
	その他	入植者は旧耕地から引継いだコーヒーを主体として営農を行っていたがこれがサビ病により打撃を受け，現在ではわずかに栽培が見られる程度である。鐘紡絹戸生糸など製糸会社の進出により昭和48年末より養蚕の導入が図られている。

地区略図



移住地略図



(5) 桜・高森移住地

所在地	サン・パウロ州グァラレーマ郡 COLÔNIA CEREJEIRA, ESTRADA GUARAREMA KM6, BAIRRO GOIABAL, MUNICÍPIO DE GUARAREMA, ESTADO DE SÃO PAULO
面積	200ha
経緯	日系コロニアの有力者足立小平治氏が，昭和35年伯人株主の土地の委任を受けて日本人移住者に分譲することとなった。当初同氏の出身県である岐阜県から受入れたが，後全国から受入れることとなった。入植者は日本直来と現地からとあわせて78世帯となった。

自然環境	地形	長い起伏の丘陵，小川，谷川，湧水等豊富，標高580～590m
	地質・土壌	埴土
	植生・林相	再生林を含む草原地帯
	気候	年平均気温17℃ 年間降雨量1,500mm
社会環境	主要都市への交通手段	近傍各都市へバス便が頻繁にある。 サン・パウロ市　人口　約703.4万人　57km ジャカレー市　〃　10.4万人　12km モジ・ダス・クルーゼス市　〃　12.2万人　30km グァラレーマ市　〃　7千万人　6km
	市場	サン・パウロ市並びにリオ・デ・ジャネイロ市
	地区内道路整備状況	良好
	電気	自力で電化済み，一部事業団負担。
	飲料水	井戸（但し，桜地区の極く一部に水のないロッテあり。）
	公共施設	
	事業団医療	小学校（教員宿舎），日本人会館，倉庫，公民館
	その他	日語学校 中学・高校はグァラレーマ市もしくはジャカレイ市に通学 移住地内に医療施設はなくグァラレーマ市を利用

入植戸数と人員（内地）

年度	37	38	39	40	41	42	43	44
戸数	39	0	4	3	1			
人員	171	0	19	11	3			

年度	45	46	47	48	49～52	現地入植者	合計	定着数
戸数						98	145	78
人員						469	673	429

主なる出身県名	岐阜	長野	広島	その他	合計
戸数	51	20	6	1	78

昭和53年10月現在

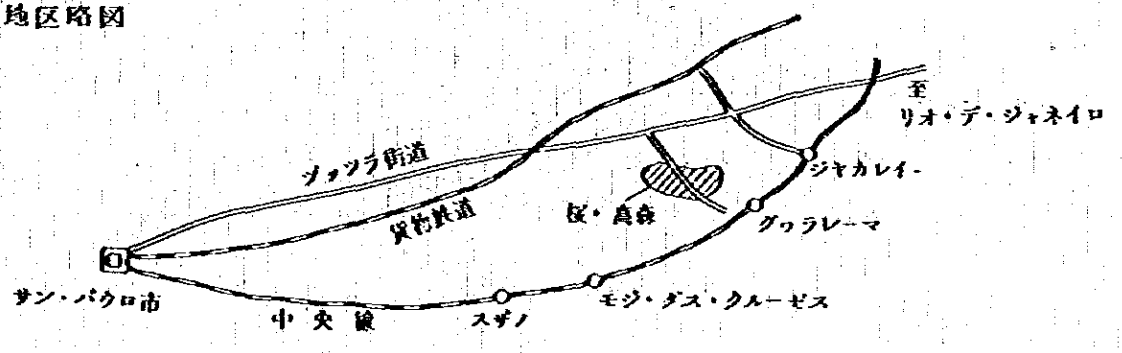
入植世帯数	桜高森		入植世帯数 戸数	入植世帯数 人数	農家戸数 戸数	農家戸数 人数
	日本人	居住	76	432	76	
		非居住	3	14	0	
		計	79	446	76	
	現地人		17	95	7	

昭和56年9月30日現在

分譲状況		
	総面積	200ha
	ロッテ面積	1ロッテ約5ha
	分譲条件及価格	一括払い Ⓐ 52万円 Ⓑ 28,8万円 分割払い 頭金残金は1年以内。
	地権取得	取得済。 一部分割払未了の者が494号法律(1971年10月1日付法律5709号)の制限にかかり未取得である。 昭和53年10月現在

農業		
	主作目	花卉(バラ, グラジオラス)
	営農状況	露地バラの栽培専業農家がほとんどで, 一部相撲との複合経営および養鶏を営む。
	営農指導機関	事業団サンパウロ支部, 協力機関としてコチヤ産組等。
	主作物の販売取扱機関	花卉は主として個人。 蔬菜, 鶏卵, 鶏肉, 果実は主として組合。

地区略図



(6) アウリベルデ移住地

所在地	サン・パウロ州カッポン・ボニート郡 NUCLEO AURIVERDE, MUNICÍPIO DE CAPÃO BONITO ESTADO DE SÃO PAULO	
面積	418 ha	
経緯	青年現移住者独立用及び本邦からの入植者を対象として，昭和52年に事業団が取得，造成した移住地である。入植者の受入れは昭和53年より始まった。	
自然環境	地形	南部が高く（標高750m）北部，西部に向かって約50mの標高差がある。地区内に3本の小川が流れており波状形地が3ケ所にわかれてある。
	地質・土壌	粘板岩系を母岩とするLatsol Vermelho Escuroと呼ばれる赤色樺壌土
	植生・林相	20 haの再生林の他は牧野，畑地である。
	気候	年平均気温　20.1℃ 年間降雨量　1,453.2mm 乾期　4～9月　　雨期　10～3月
社会環境	主要都市への交通手段	移住地入口から各都市への道路は完全舗装 カッポン ボニート市（人口2.4万人）　距離　6.5Km ソロカバ市（人口25.5万人）　〃　133Km サン・パウロ市（人口703.4万人）　〃　245Km
	市場	カッポン・ボニート市，サン・パウロ市等
	地区内道路整備状況	土道であるが良好
	電気	電気は移住地入口から，保留地まで道にそって配線され，北伯域外へ連結している。
	飲料水	8～10mの素掘井戸で水質は良好である。
	公共施設	移住地内に特にないがカッポンボニート市に病院がある。また同市に小学校，中学校，普通高校，商業高校，師範学校がある。

入植戸数	年度	52	53	54	55	56	現地入植者	合計	定着数
	戸数						11	11	11
	人員						47	47	47

昭和56年9月末現在

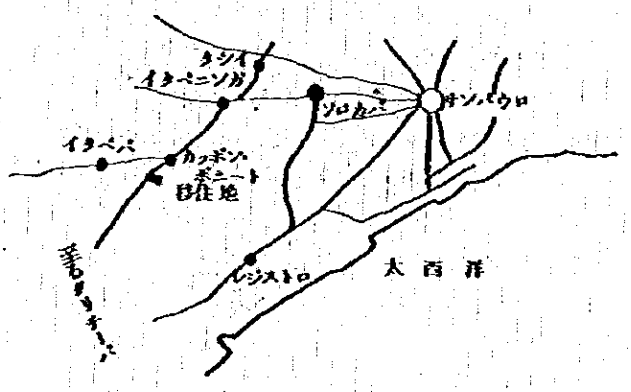
入植世帯数			入植世帯数		農家戸数	
			戸数	人数	戸数	人数
	日本人	居住	11	47	11	
		非居住	15	68	15	
		計	26	115	26	
	現地人		0	0	0	

昭和56年9月30日現在

分譲状況		
	総面積	418ha
	ロッテ面積	15ha
	分譲条件及び価格	一括払いまたは頭金20%以上および4年据置5年払いの分割払い。 但し土地代金額について全期間年12%の利息を加算する 1ロッテ(標準15ha)5,137,000円相当的賃貸
	分譲可能面積	395ha(26ロッテ)
	分譲状況	分譲済面積 395 / 未分譲面積 0 / 道路市街地等利用地 8 / 除地 15
		昭和56年10月現在
	地権取得	0ロッテ

農業		
	主作目	麻, 果樹, 花卉
	営農援護機関	
	営農指導	コチブ産業組合カッポンボニート倉庫の指導を時に受ける。
	金融機関	銀行, 組合, 事業団

地区略図



(7) バルゼア・アレグレ移住地

所在地	マット・グロッソ州テレーノス郡 FAZENDA VARZEA ALEGRE, MUNICÍPIO DE TERENOS, ESTADO DE MATO GROSSO DESUR	
面積	36,472ha	
経緯	昭和32年，邦人自営農受入地として日南外移住振興会社が，購入造成した移住地である。入植は昭和38年から開始され山口県人が多い。 当初はバナナ及び米を中心にした営農に従事したが思わしくなく，その後養鶏を導入し相俟，アバカシ（パイナップル）などの果樹と組み合わせての経営は順調である。	
自然環境	地形	北部は平坦地，南部は緩傾斜丘陵地　標高210～325
	地質・土壌	主に砂壌土，砂質土，若干のテーラ・ロッシャ地帯が斑点状に散在。
	植生・林相	いわゆるカンポセラード地帯である。原始林や再生林が散在するが有用材乏しく草生地帯も極めて少い。
	気候	年平均気温24.7℃ 平均最高気温34.0℃　平均最低気温10.0℃ 降雨量　1313mm 雨期10月～3月　乾期4月～9月　区別は明瞭。
社会環境	主要都市への交通手段	鉄道はノロエス線の駅が地区内に2ケ所あり，カンポ・グランデ市まで約1時間，テレーノス市まで約30分，1日に2便ある。 カンポ・グランデ市からサン・パウロ市間1,043kmには，鉄道，バス便，航空機がある。 鉄道　毎日2，3回で　30時間 バス　夜行含めて毎日6往復　13時間 航空機　毎日2本，時にまり3本　1時間半
	市場	カンポ・グランデ市，クヤバ市，サン・パウロ市 テレノース町（3千人）　距離　20Km カンポグランデ市（30万人）　〃　15Km
	地区内道路整備状況	土道であるが良好 地区内に国道BR262号（アスファルト）が通っている（カンポ・グランデ～アキダウアナ～ボリビア国境）。
	電気	昭和53年電化工事中，事業団補助。
	飲料水	入植者は素掘井戸，公共団地並に市街地の組合団地の事業所，学校。

社会環境		組合などは鉄道用水道を借用利用している。
	公共施設	
	事業団長護	移住地内に医療機関はないがカンポ・グランデ市にカトリック教団経営慈善病院、私立病院がある。
		小学校
	組合等	倉庫、自治配合所、組合共同販売所
	その他	公民館
		中学校以上の上級学校は、カンポ・グランデ市に寄宿

入植戸数（と内入植員）	年度	昭和33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44
	戸数	8	9	24									
	人員	37	41	129									
	年度	45	46	47	48	49	50	51	52	現地入植	合計	定着数	
	戸数						1			50	92	45	
	人員						2			254	463	231	

主なる出身県名	山口県	広島県	鳥取県	大阪府	その他	合計
戸数	29	3	2	2	9	45

昭和53年10月現在

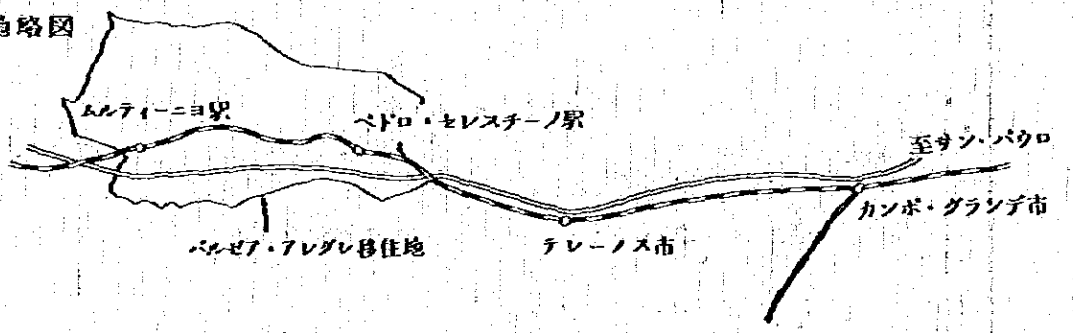
入植世帯数			入植世帯数		農家戸数	
			戸数	人数	戸数	人数
	日本人	居住	61	311	60	
		非居住	64	278	64	
		計	125	589	124	
	現地人		14	58	14	

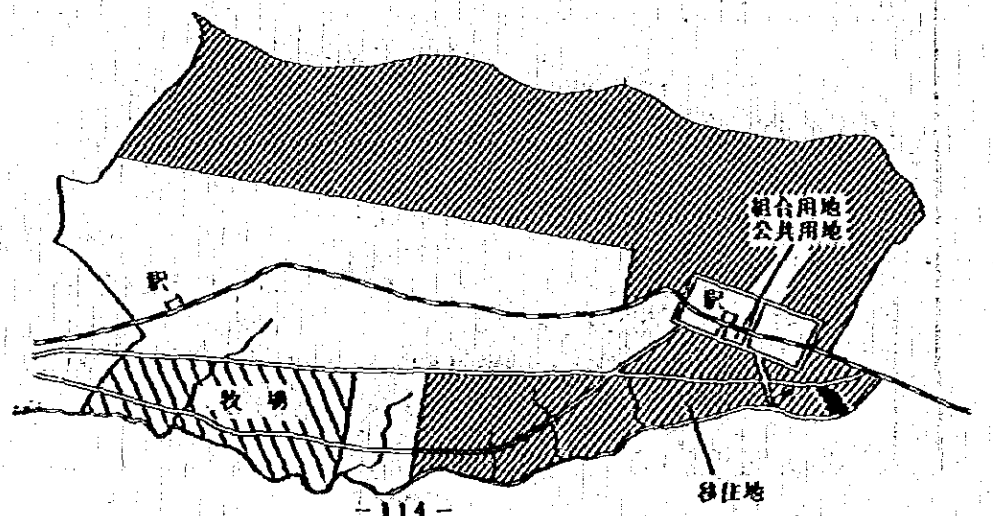
昭和56年9月30日現在

分譲		
	総面積	36,472ha
	ロッテ面積	25ha（小型ロッテ） 370ha（大口ロッテ）
	分譲条件及価格	一括払い並に分割払い
		小型ロッテの分割払い頭金10%以上4年据置5年均等払い、大口ロッテは頭金30%以上据置なし6年払い。但し土地代全額について、全期間年12%の利息を加算する。
		小型ロッテ（標準25ha） 682,000円相当賃貸額
		大口ロッテ（標準370ha 10,332,000円 〃
	分譲可能面積	34,242.5ha（218ロッテ）

状況	分譲状況	分譲済面積	未分譲面積	道路市街地等利用地	除地
		24,493	9,749㎡	633	1,596㎡
	地権取得	207ロッテ中，取得済102ロッテ，未取得105ロッテ（うち申請中10ロッテ） 昭和56年9月末現在			
農業	主作目	鶏卵，柑橘			
	形態	養鶏専業農家が殆んどで一部果樹，蔬菜を組み合わせた営農を行っている。			
	農機具の普及状況	トラクター1.1台　トラック0.6台　動噴0.9台			
	家畜飼養頭数	内牛39頭　役馬0.1頭			
	営農援護機関				
	営農指導	事業団　農協　IPEAO（西部農牧調査実験研究所）			
	金融機関	銀行，事業団			
	主作物取扱機関	鶏卵は，パルゼア・アレグレ産業組合，果樹については商人或は個人が直接カンポ・グランデ市にて販売している。			
	その他	パルゼア産組はサン・パウロ産組中央会に加盟しており同会の養鶏技師によって時々技術指導が行なわれている。			

移住地略図





(8) 日 光 移 住 地

所在地	パラナ州マリア・エレーナ郡 COLÔNIA NIKKO, MUNICÍPIO DE MARIA HELENA, ESTADO DO PARANÁ	
面積	904.9 ha	
経緯	戦後の雇用移住者が，協同して事業団から土地購入資金の融資を受けて，集団的に独立した地区である。経営の主体はコーヒーであるが，最近は果樹に力を入れている。	
自然環境	地形	緩やかな起伏のある波状地，地区内に小川が2－3本ある。標高約470 m
	地質・土壌	テーラロシャミスタ砂壌土。PH6.5
	植生・林相	厚生林（潅木，喬木が密生）
	気候	年平均気温　24℃ 平均最高気温　33℃　平均最低気温　17℃ 年間降雨量　1,200 mm内外
社会環境	主要都市への交通手段	移住地～マリア・エレーナ　バス1日3便　所要約1時間 〃～ウムアラーマ　〃　2便　〃　2時間 〃～セーラ・ドス・ドウラード　〃　3便　〃　30分 〃～ロンドリーナ　〃　1便　〃　7時間 マリア・エレーナ市　人口　約2千人　25 Km ウムアラーマ市　〃　5万人　40 Km セーラ・ドス・ドウラードス市　12 Km ロンドリーナ市　〃　25.8万人　350 Km
	市場	
	地区内道路整備状況	土道，雨天通行は可能だが極端に悪路となる部分がある。
	電気	昭和51年事業団援助により電化
	飲料水	各戸井戸水利用，水質良好
	公共施設 事業団援護	小学校1校（但し校舎は移住者が負担宿舎は事業団が建設） 公民館 地区内に医療施設はないがウムアラーマ市に特約医がいる。
	その他	中学校・高校はウムアラーマ市に寄宿

入植戸数と人員（内地）	年度	昭和37	38	39	40	41	42	43	44
	戸数								
	人員								
	年度	45	46	47	48	49～52	現地入植者	合計	定着数
	戸数						62	62	32
	人員						319	319	222

主なる出身県名	高知	愛媛	鹿児島	その他	合計
戸数	6	2	2	22	32

昭和53年10月現在

入植世帯数			入植世帯数		農家戸数	
			戸数	人数	戸数	人数
	日本人	居住	28	213	28	
		非居住	2	11	2	
		計	30	224	30	
	現地人		15	90	15	

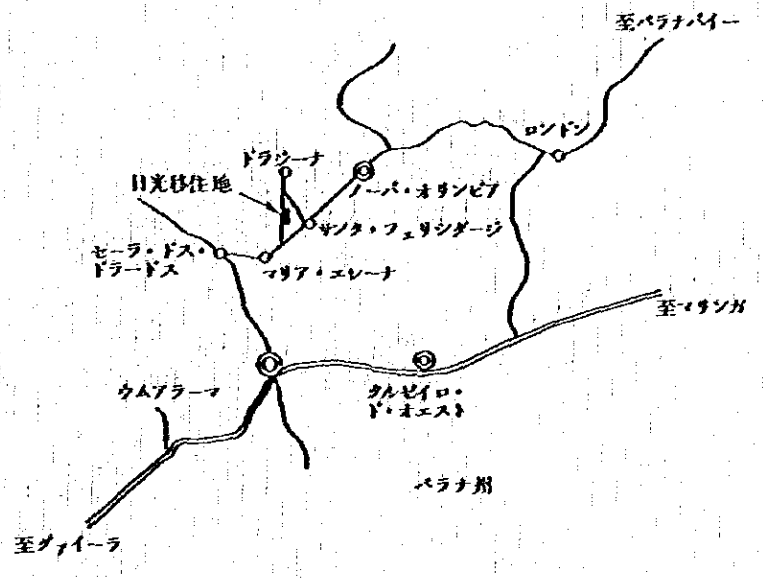
昭和56年9月30日現在

分譲状況		
	総面積	904,9ha
	ロッテ面積	1ロッテ約12.10ha（56ロッテ）
	分譲条件及価格	契約の当事者並びに入植者団体と地主との契約 土地代はha 45～75 cr 4年分割 （但し入植当時の価格で現在は清算）
	地権取得	全戸取得済

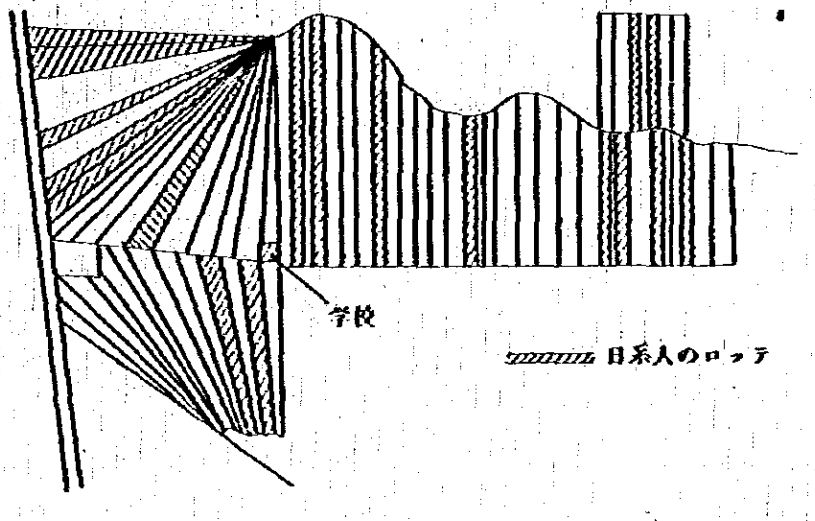
昭和53年10月現在

農業		
	主作目	コーヒー，麻芋，ブドウ，マユ
	形態	コーヒーを主体にフェジョン，大豆，落花生等雑作を組み合わせた営農，ブドウ，養蚕も経営に取り入れる農家がある。
	農機具の普及状況	トラック1.0台　トラクター0.5台　動噴1.5台（昭和53年）
	家畜飼養頭数	肉牛19頭　豚24,3頭　乳牛1,4頭　役馬1,2頭（昭和53年）
	営農関係機関	
	営農指導	事業団サンパウロ支部 南伯産業組合中央会よりの専門家による指導が時にある。
	金融機関	銀行，事業団
	主作物取扱機関	南伯産組

地区略図


至パラナバイー
ロンドン
ドラジーナ
ノーバ・オランピア
日光移住地
サンタ・フェリシダージ
セーラ・ドス・
ドラードス
マリア・エレーナ
至イランガ
ウムアラーマ
クルゼイロ・
ド・オエスト
パラナ州
至ダイーラ

移住地略図


学校
日系人のロッテ

V．ポルト・アレグレ支部

V　ポルト・アレグレ支部

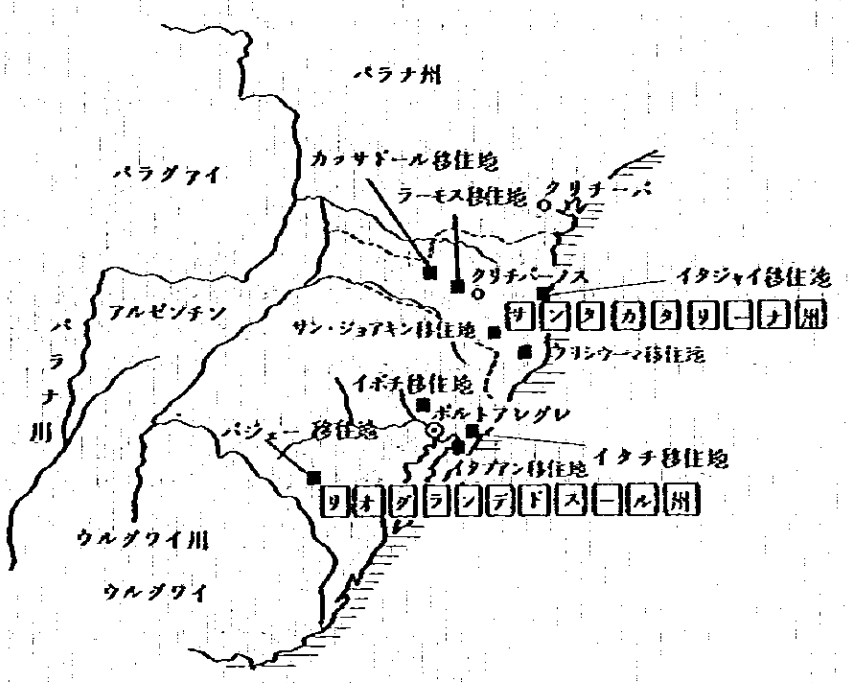
支部機構

　ポルト・アレグレ支部（ポルト・アレグレ市）

管轄州

　リオ・グランデ・ド・スール州

　サンタ・カタリーナ州



1. 移住地所在地域の概要

管轄州	サンタ・カタリーナ州，リオ・グランデ・ド・スール州
概要	サンタ・カタリーナ州は人口3,659,500人（1978年），州都はフロリアノ・ポリスである。 リオ・グランデ・ド・スール州は7,971,428人，州都はポルト・アレグレ市である。人種構成は両州とも白人比率が他州に比べ高い（リオ・グランデ・ド・スール州89％，サンタ・カタリーナ州95％ブラジル平均61.0％） 気候は亜熱帯から温帯に属し，年平均気温は15℃～20℃である。雨量は年間概ね1,200㎜から1,800㎜で夏乾冬湿で，ウルグアイ型である。
産業	管内の主要産業は農牧畜で労働人口の45％が第1次産業に従事している。 〔農業〕 奥地は大面積による農牧畜（水稲，大豆，小麦，馬鈴薯等及び牛羊等），近郊は中小面積での集約農業（ブドウ，桃等温帯果樹及び葉菜類，花卉等）が多い。 生産量から見れば，リオ・グランデ・ド・スール州の米はブラジルの22％を生産する。 〔工業〕 企業数においてはリオ・グランデ・ド・スール州はサンパウロに次いで2位，サンタ・カタリーナ州は5位を占めている。皮革工業，金属加工組工業，機械化学工業，繊維工業，食糧品加工業，ブドウ酒製造業等が盛んでヨーロッパ系移住者が母国の技術を移転し発展させた分野が多く多角的である。 企業規模は零細企業が多く，従業員が100名未満のものが95％をしめている。 〔鉱業〕 石炭はサンタ・カタリーナ州がブラジル総生産額の80％を，リオ・グランデ・ド・スール州が20％強を産出している。リオ・グランデ・ド・スール州では銅（ブラジルの90％以上），及び黄水晶，木化石等も産出している。
主要都市	ポルト・アレグレ市 リオ・グランデ・ド・スール州の主都，パットス湖の北端グアイーバ河口の西岸（南緯30°01′53″）に位置する。 1752年以降ポルトガル（系）人が大西洋上のポルトガル領アソーレス島から移住，1824年以降は中央ヨーロッパ系（ドイツ人，イタリア人，ポーランド人，スペイン人）が移住してきており，人種のモザイク都市となっている。 ポルト・アレグレは1742年に創設され，ポルト・ドス・カザイスと呼ばれていたが，1772年に町造りが始められ1773年に現在の市名ポルト・アレグレと改称され，1810年に政庁が置かれ州都に昇格している。 グアイーバ河，ジャクイ河，シーノス河及びカイ河が合流し，グアイーバ湾となっておりパットス湖に達っていて，水路の要衝に位置していること，外国人が移住してきたこと及び鉄道が敷設された等もあって工業化が促進され南部ブラジルの政治，経済，文化の中心となっている。

市の人口は1,175,000人（1980年推定），ブラジル第5の人口をもつ都市である。
気候は温帯的で年間平均気温は19℃と温暖であるが，標高が15mと低いうえに，パットス湖の影響をうけて夏は非常にむし暑い。

2. 移住地の概要

(1) モーラス移住地

所在地	サンタ・カタリーナ州，クリチバーノス郡フレイ・ロジェリオ地区 DISTRIO DE FREI POGERIO, CURITIBANOS, SANTA CATARINA(NUCLEO COLONIAL"GOVERAADOR CELSO RAMOS")	
面積	1,137ha（50ロッテ）	
経緯	サンタ・カタリーナ州中，山部地帯の農業振興のため，同地域に適する温帯果樹及びその他の農作物並びに小家畜の飼育に専門的技術を有する日本人を導入することを目的として，州と事業団が協定に基づいて創設した州直営の混成移住地である。（日本人入植枠70％，現地伯国人枠30％） 日本人の入植は，昭和39年及び同40年に現地から16世帯．日本からは昭和42年以降今日まで3世帯が入植しているが，その後雇用青年の受入と独立，他地域からの移住地内或いはその隣接地への入植もあり，ラーモス地区在住の日本人在住者数は総計65戸となっている。	
自然環境	地形	傾斜4～7°の丘陵地帯で，地区内に細流多数。
	地質・土壌	母岩が玄武岩の壌土，植壌土，砂壌土，PH 5～5.8
	植生・林相	未利用地は大部分再生林化し，灌木，雑草が繁茂している。現在殆んど自然原生林は残っていない。
	気候	年平均気温　15～16℃ 平均最高気温　24.5℃　平均最低気温　9.1℃ 年間降雨量　1,400～1,600㎜
社会環境	主要都市への交通手段	移住地～クリチバーノス市間（23Km）砂利道。定期バス1日2往復のほか，入植者自家用車等がひんぱんに通っている。所用時間30分。 クリチーバ市～クリチバーノス市～ラージェス市～ポルト・アレグレ市間　完全舗装。 クリチーバ市～クリチバーノス市　定期バス4～5便　約5時間。 クリチバーノス市～ラージェス市　定期バス4～5便　約2時間。 ラージェス市～ポルトアレグレ市　定期バス2便　7時間。
	市場	モモ，リンゴ等果樹は，主にサンパウロ市へ直接共同出荷。花卉類は主にポルト・アレグレ市場，その他一部はサンパウロ，クリチーバ及び近隣都市。
	地区内道路整備状況	起伏多く，ひんぱんな維持補修を要するが，市が政府の援助を受けて実施している。雨天通行にはやゝ困難な部分がある。
	電気	電化は昭和52年度までに完了。
	飲料水	素堀井戸（7～8m）水質良好，水量は豊富である。

社会	公共施設 生産関連	小学校1校，教員宿舎2棟，公民館1棟。地区内に医療機関はないがクリチバーノス市（人口1.5万人）に総合病院がある（フレイ・ロジェリオ病院）。
	その他	中学校，高等学校はクリチバーノス市，クリチバ市，ラージェス市，ポルトブレグレ市に通学あるいは寄宿。

入植戸数と人員（内地）

年度	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49～52
戸数					3	2	5		1	
人員					19	8	16		4	

年度	現地入植者	合計	定着数
戸数	72	83	65
人員			335

主なる出身県名	北海道	長崎県	山口県	沖縄県	その他	合計
戸数	17	8	5	4	31	65

入植世帯数

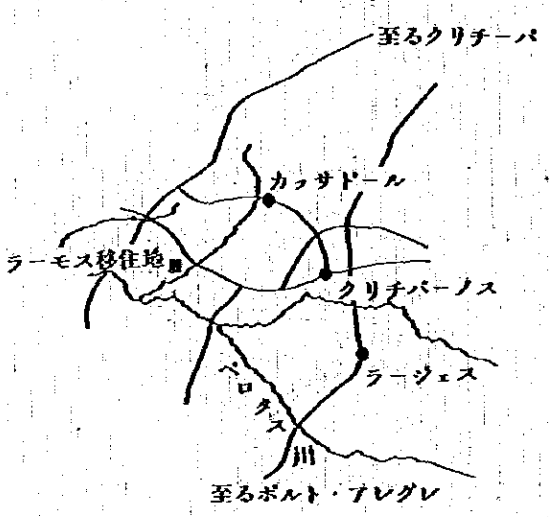
ラーモス		入植世帯数 戸数	入植世帯数 人数	農家戸数 戸数	農家戸数 人数
日本人	居住	58	296	56	
	非居住	7	39	7	
	計	65	355	63	
現地人		15	—	15	

昭和56年3月末現在

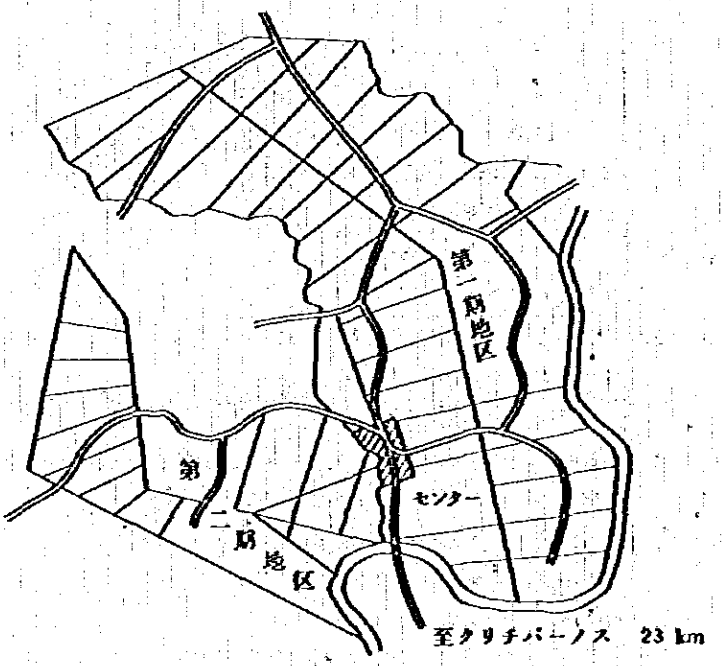
分譲状況	総面積	1,137ha（50ロッテ）
	ロッテ面積	1ロッテ平均25ha（12haのロッテも7ロッテある。）
	分譲条件及価格	土地代（含住宅資材代）Cr $1,997 3年据置 10年分割払い（無利子）。 44年9月以降 土地代Cr $1,000 3年据置 5年分割払い（無利子）住宅資材は購入原価を8年後5年分割払い。
	分譲状況	分譲済総面積：1,1145ha 未分譲面積：— 道路市街地等利用地：225ha 除地：—
	地権取得	現地入植者（全員第一次入植）は土地代払込を完了しており，地権取得済。また払込中のものも全員地権は発給済となっている。
農業	主作目	ニンニク，トマト，ピーマン等の果菜類。カーネーション，キク及びリンゴ等の温帯果樹。
	形態	花卉生産（カーネーション，菊）グループ，輸送果菜生産（トマト，人参，ビート等）グループ，ニンニク生産グループ及び，リンゴ，桃生産グループとそれぞれ専業分化している。

農業	農機具の普及状況	トラクター　0.6台，トラック　0.3台，耕運機　1.1台，
	家畜飼育頭数	乳牛　0.3頭，肉牛　0.1頭，豚　0.1頭
	営農援護機関 営農指導	事業団ポルトアレグレ支部，州農業改良普及事務所，国立農業試験場が近接してある（ピィデイラ市60km）。
	金融機関	伯国銀行，州立銀行その他市中銀行及び事業団（南米銀行）
	主産物取扱機関	大部分の生産物はコチア・南伯両農協を通じ，サンパウロ市へ共同出荷している。

地区略図



移住地略図



(2) イボチ移住地

所在地	リオ・グランデ・ド・スール州イボチ郡及びドイス・イルモン郡 VALE DAS PALMEIRAS, MUNICIPIO DE IVOTI, ESTADO DO RIO GRANDE DO SUL	
面積	257.53 ha	
経緯	リオ・グラスデ・ド・スール州分益農移住者が中心となり，事業団の土地購入資金の融資を受けて，昭和42年26戸が集団的に土地購入独立した地区で，移住地農家の雇用青年および散在近郊農家の一部が同様の要領で隣接地区を買収入植したもの。	
自然環境	地形	谷から山頂まで150～250mあり，北西に傾斜をなす丘陵の一角にイボチ移住地がある。標高平均200m
	地質・土壌	玄武岩，結晶片岩を母岩とする赤褐色ラテライトで有機質に富み水はけがよい。
	植生・林相	再生樹木林，アカシア・ネグラ植林地が大部分であったが，現在は殆んど全部が畑地となっており，ベッチン河沿いの共有地だけが樹木林で残されている。
	気候	年平均気温21.1℃ 平均最高気温　26.3℃　平均最低気温　14.2℃ 年間平均降雨量　1,363.8mm 降雨　冬期鈍回。
社会環境	主要都市への交通手段	ポルト・アレグレ市より完全舗装道路（BR116）50kmでイボチ町に至る。 ポルト・アレグレ市人口（117万5千人）50km，イボチ町（人口5千人）3km ノーボ・ハンブルゴ市（人口8万人）10km，サン・レオポルド市（人口5万人）15km，ドイス・イルモン市（人口1万7千人）6km。
	市場	ポルト・アレグレ市，サン・パウロ市，リオ市，ヨーロッパ諸国。
	地区内道路整備状況	無舗装，雨天時若干泥ねい化するところがあるが，幹線道路は郡道に編入されており，郡役所が随時補修を行っている。
	電気	電化は州の補助を受け自力で導入。
	飲料水	事業団補助により51年度に3ケ所の深井戸を掘削，良好な水質の飲料水が得られる。
	公共施設 事業団民館	深井戸3基，ダム及び給水塔，農協事務所兼購買売所，公民館
	その他	医療施設はイボチ町，ドイス・イルモン市，ノーボ・ハンブルゴ市にある病院を利用している。 イボチ町にも小学校及び中学校がありここに通学しているものもある。高校，大学はノーボ・ハンブルゴ，サン・レオポルド，ポルト・アレグレ市に通学又は寄宿。

入植戸数と人員（内地）	年度	41	42	43	44	45	46	47	48	49～52	現地入植者	合計	定着数
	戸数							2			55	57	45
	人員							2					260

主なる出身県名	鹿児島県	北海道	山口県	熊本県	静岡県	その他	合計
戸数	13	6	5	4	3	14	45

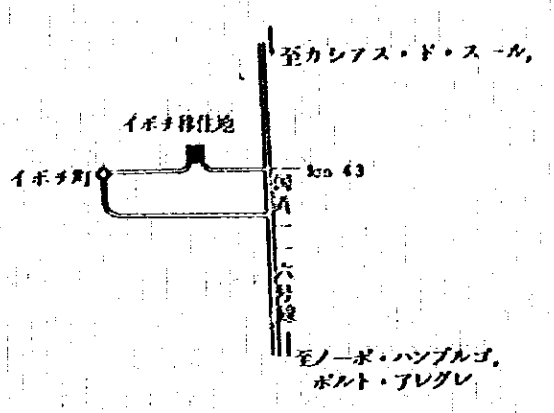
入植世帯数	イボチ	入植世帯数 戸数	入植世帯数 人数	農家戸数 戸数	農家戸数 人数
	日本人 居住	45	260	45	
	日本人 非居住	—	—	—	
	計	45	260	45	

昭和56年10月現在

分譲状況		
	総面積	257.53ha
	ロッテ面積	1ロッテ 5.84ha
	分譲条件及価格	数人の地主より独立開成会が一括購入（事業団の融資援助）事後各人に分割。
	地権取得	全戸取得済

農業		
	主作目	ブドウ，カーネーション，チシャ
	形態	イタリヤ種，巨峰種などの生食用ぶどうを主幹作物としてこれに，ビワ，柿，柑橘，モモ等の果樹及び蔬菜を組み合わせた営農を行っている。
	農機具の普及状況	トラック0.6台，トラクター0.1台，耕運機1.0台，動噴1.8台
	家畜飼育頭数	豚0.1頭
	営農援護機関	
	営農指導	事業団ボルトアレグレ支部
	金融機関	銀行，事業団
	主作物取扱機関	イボチ農協
	その他	当初ブドウ，養鶏を組み合わせた営農を行っていたが，現在では果樹収入が全体の約90％を占めている。

地区略図



(3) イタチ移住地

所在地	リオ・グランデ・ド・スール州オゾーリオ郡イタチ村 VILA ITATI, MUNICIPIO DE OSORIO, RIO GRANDE DO SUL	
面積	139.5ha	
経緯	リオ・グランデ・ド・スール州の分益農移住者が中心となり，事業団の土地購入融資を受けて，昭和42年集団的に土地購入独立した地区である。	
自然環境	地形	東は河どまりで，移住地の東半分はその河の沖積層の谷，西半分は丘陵である。谷と丘陵の間に小川と低平地がある。
	地質・土壌	玄武岩，結晶片岩を母岩とする褐色のラテライトで，有機質に富み水はけがよい。
	植生・林相	再生経木林
	気温（トーレス市）	年平均気温　17.9℃ 平均最高気温　21.7℃，平均最低気温　14.4℃ 年間降雨量　1,423mm
社会環境	主要都市への交通手段	移住地～オゾーリオ市，ポルト・アレグレ市とも完全舗装（BR101）である。バス便は直行4便運行している。 イタチ村人口　500人　3km トーレス市人口　2万人　60km オゾーリオ市人口　2万人　70km ポルト・アレグレ市人口　117万人　170km
	市場	ポルトアレグレ市が主市場，その他近隣都市。
	地区内道路舗装状況	移住地がイタチ村を環状に1周しており，砂利道であるが雨天でもバス運行の中止はない。
	電気	電化ずみ。
	飲料水	井戸を使用している。
	公共施設	
	農協	共同花卉冷蔵庫兼集会場（始銀の融資援助）

入植世帯数	イタチ		入植世帯数		農家戸数	
			戸数	人数	戸数	人数
	日本人	居住	16	92	15	
		非居住	—	—	—	
		計	16	92	15	

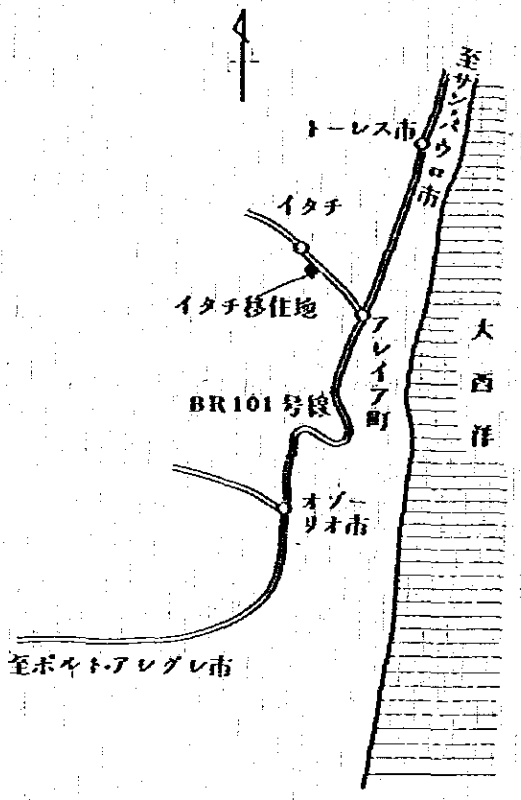
昭和56年3月末現在

分譲状況		
	総面積	139.5ha
	ロッテ面積	1ロッテ平均 14ha 但し一部入植者(6戸)は9.6ha
	分譲条件及価格	43年転入者 7戸 ha当り 850 Cr$ 事業団融資金を含む現金一括払い 45年転入者 2戸 ha当り 1,200 Cr$
	分譲状況	分譲済面積 139.5ha / 未分譲面積 — / 道路市街地等利用地 — / 除地 —
	地権取得	全戸取得済

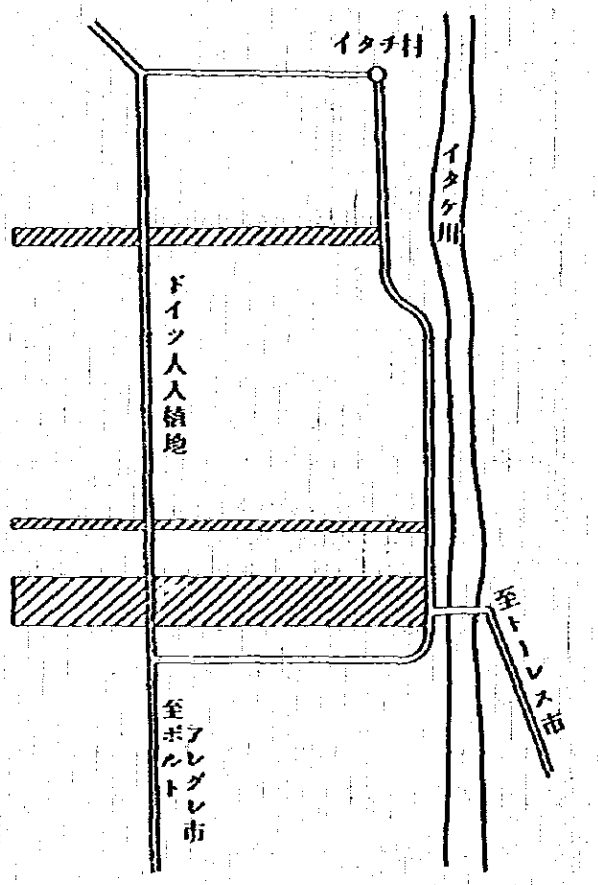
昭和56年9月末現在

農業		
	主作目	トマト，ピーマン，キュウリ，バラ，キク，カーネーション等。
	形態	トマト，ピーマン，キューリ等の蔬菜専業及びキク，カーネーション，グラジオラス，バラ等を組み合わせた花卉専業営農に2分されている。
	農機具の普及状況	トラック0.9台，耕運機1.8台，動噴2.7台
	家畜飼育頭数	牛1.1頭，馬0.1頭
	営農援護機関 営農指導	事業団ボルトアレグレ支部
	金融機関	銀行，事業団
	主作物取扱機関	ボルト・アレグレ市場の依託販売業者

地区略図


至サンパウロ市
トーレス市
イタチ
イタチ移住地
アレイア町
BR101号線
オゾーリオ市
大西洋
至ポルト・アレグレ市

移住地略図


イタチ村
イタケ川
ドイツ人入植地
至トーレス市
至ポルト・アレグレ市

(4) イタジャイ移住地

所在地	サンタ・カタリーナ州イタジャイ郡 NUCLEO COLONIAL "RIO NOVO" ITAJAI, ESTADO DO SANTA CATARINA	
面積	60ha	
経緯	昭和44年，ラーモス移住地ネクタリン祭の席上，IRASC総裁，州農務長官，当時のブラジル農業開発院（INDA）駐在官等より，近い将来沿岸地帯に日本人を主とする蔬菜園芸移住地を設定することについて，是非検討して欲しい旨要望があった。 その後昭和46年5月に至って，IRASCより正式にイタジャイ地区についての現地調査依頼があった。 従来，イタジャイを始めとする近傍主要都市における蔬菜生産には殆んどみるべきものがなく，果菜類の90%はサン・パウロ，ラパナ方面からの移入品に頼ってきたが，鮮度が著しく落ちる上に高価であり，市民の食生活は極めて低調であった。 そこで，日本人を中心とする蔬菜園芸移住地を設定して，生産物を新設予定の市中央市場に直結させ，近傍主要都市の生鮮蔬菜類の供給を確立せしめるとの具体的構想を持つに至った。 市は土地の購入ロッテ造成，電気導入，住宅建設等をIRASCは，住宅建設費用の負担，州農業改良普及院（ACARESC）は営農相談，融資あっせん，当団は日本人入植者の選考をそれぞれ担当し，昭和47年に日伯混成入植を開始したものである。	
自然環境	地形	沿岸平坦低湿地　標高18m
	地質・土壌	表層部は，100～150cmの老朽有機物堆積，その下は水成岩を母岩とする砂質土と泥炭質粘土の混合土壌
	植生・林相	広葉樹の中に有用堅木が混生する原生林で，60%程度は熱帯化している。
	気候	多雨温暖性気候　1971年（昭和46年）の観測結果， 年平均最高気温　27.66℃　年平均最低気温　16.48℃ 年平均相対湿度　76.52% 年平均降雨日数145日で降雨は年数回，降雨量は1,589.8mmである。
社会環境	主要都市への交通手段	移住地～イタジャイ市間はBR101号線南下3km，車で10分程度，BR101号線をひんぱんに通るバス便を利用。 BR101号線はフロリアノ・ポリス市，ポルト・アレグレ市およびクリチーバ市，サンパウロ方面に通じている。 ジョインビレ市　人口約8万人　BR101北上約80km イタジャイ市　人口約8万人　BR101南下約　3km

	カンポリウ市　人口約3万人　BR101南下約5km フロリアノ・ポリス市　人口約18万人　BR101南下約85km ブルメナウ市　人口約10万人　BR101西方約35km ブルスケ市　人口約4万人　BR101南西約30km
市場	イタジャイ市
地区内道路整備状況	リオ・ノーボ川沿いに幅員8mの公共道路が貫通している。
電気	電気は創設に当り導入されている。
飲料水	飲料水用水道は完備しているが，リオ・ノーボ川の川水を浄溜しているもので，水質は良くない。
公共施設	

入植戸数と人員（内地）	年度							現地入植者	合計	定着数
	戸数							7	7	7
	人員							26	26	26

主なる出身県名	北海道	鹿本県	高知県	茨城県	合計
戸数	4	1	1	1	7

入植世帯数	イタジャイ		入植世帯数		農家戸数	
			戸数	人数	戸数	人数
	日本人	居住	7	26	7	
		非居住	—	—	—	
		計	7	26	7	
	現地人		3	3	3	

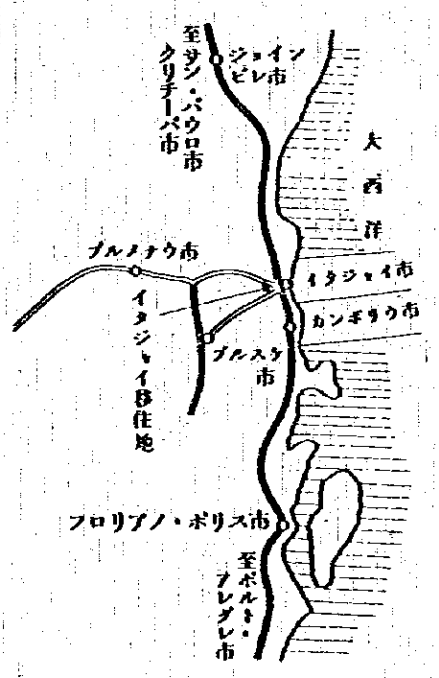
昭和56年3月末現在

分譲状況	
総面積	60ha
ロッテ面積	1ロッテ6ha×10ロッテ
分譲条件及価格	1ロッテ価格，土地代・家屋建築費・造成費の合計　Cr$ 25,000　2年据置 10年払い
分譲可能面積	60ha
分譲状況	分譲済面積：60ha　未分譲面積：—　道路市街地等利用地：—　除地：—
地権取得	全戸地権は発給済

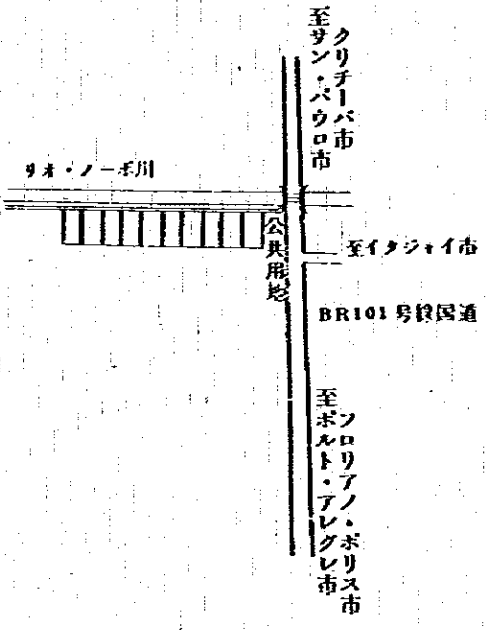
昭和56年10月末現在

農業	主作目	キク，トマト，ナシャ等各種の近郊蔬菜類で，目立った中心作目は設定されていない。
	形態	キク，バラ，グラジオラス等の花卉。　トマト，ナシャ，カリフラワー等の蔬菜を組み合わせた営農。
	農機具の普及状況	トラック0.2台，耕運機1.6台，動噴1.6台
	営農援護機関	
	営農指導	事業団ポルト・アレグレ支部　　農業改良普及協会（ACARESC）
	金融機関	銀行，事業団…但し現在の貸付残高なし
	主作物取扱機関	個人出荷（朝市又は個人商店卸）

地区略図



移住地略図



(5) カッサドール移住地

所在地	サンタカタリーナ州カッサドール郡パイオール・ベーリョ地区 NUCLEO COLONIAL "PAIOL VELHO", MUNICIPIO DE CAÇADOR, SANTA CATARINA	
面積	275 ha	
経緯	昭和45年頃，ラーモス移住地における日本人農家の果樹栽培状況を視察したカッサドール市長は，その成果に鑑み同郡内にも日本人を中心とした温帯果樹栽培を主とする小入植地を創設すべく，その可能性について検討を行い適地を物色した結果，農地改革に協力的な地主の所有地に決定し，市がこれを買上げIRASCの協力のもとに移住地を設定した。一方日本人入植者の選考に当っては，在リオ・グランデ・ド・スール州，サン・パウロ州の希望者の中から，当団がカッサドール郡IRASCと協議の結果10家族を選定し，昭和48年3月第1陣として9家族，翌49年3月1家族の合計10家族が入植した。また近年，近傍地区への入植農家が漸増している。	
自然環境	地形	緩い波状型，パラナ松よりなる森林にはかなり強度の傾斜が見られるが，全体的に見ればほんの一部である。標高900m～1,100m。
	地質・土壌	玄武岩を母岩とする砂壌土，有機質が比較的豊富，特に森林部には巨大有機質が堆積している。 PH 4.5～5.5
	植生・林相	疎木原生林（若干の有用木混生）と再生林および牧草地 大部分広葉樹，針葉樹はパラナ松の外2～3種で極く一部，森林は密でない。現在は森林はほとんど残っていない。
	気候	年平均気温 16.8℃ 平均最高気温 22.4℃ 平均最低気温 10.9℃ 平均年間降雨量 1,576mm 降雨日数 120日
社会環境	主要都市への交通手段	移住地～カッサドール市間は8km。（簡易舗装州道） カッサドール市からBR116号線まで60kmは完全舗装。 BR116号線は，ポルト・アレグレ市およびサン・パウロ市，クリチーバ市に通じている。
	市場	果樹の大部分とトマトはサン・パウロ市，及びリオ・デ・ジャネイロ市に出荷，その他は地元市場
	地区内道路整備状況	幅員6mの幹線道路（雨期は泥濘ひどく通行至難となることがある）。

飲料水	飲料水はロッテ付に掘抜井戸施設あり
電気	電気は55年度末に州，郡の協力により完全電化された。
公共施設	移住地内には，医療，教育等の公共施設はないが，カフサドールにあるものを利用している。事業団援護による大型トラクター一基（附属機具一式を含む）。

入植戸数と人員（内地人）												現地入植者	合計	定着数
	年度													
	戸数											14	14	14
	人員													57

主なる出身県名	福岡	熊本	大分	静岡	東京	長野	長崎	茨城	青森	北海道	合計
戸数	2	1	1	1	1	1	1	2	2	1	13

昭和53年10月現在

入植世帯数

カフサドール		入植世帯数 戸数	入植世帯数 人数	農家戸数 戸数	農家戸数 人数
日本人	居住	14	51	13	
	非居住	1	6	1	
	計	15	57	14	
現地人		—	—	—	

昭和56年9月末現在

分譲状況

総面積	275ha
ロッテ面積	1ロッテ 25ha
分譲条件および価格	土地代（含家屋） Cr $25,000，3年据置8年々賦無利子 通貨価値修正なし
分譲可能面積	周辺に購入可能な私有地あり（時価ha当りCr $8,000～10,000）

分譲状況	分譲済面積	未分譲面積	道路市街地等利用地	除地
	275ha			

地権取得	（全戸地権発給済みで）現在，州立銀行に担保として設定されている。

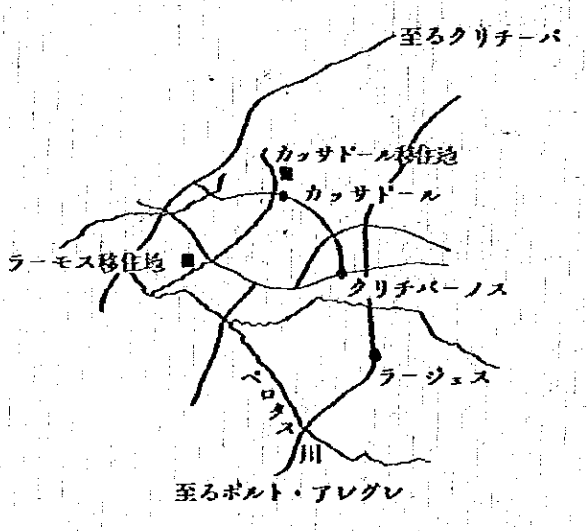
昭和56年10月現在

農業

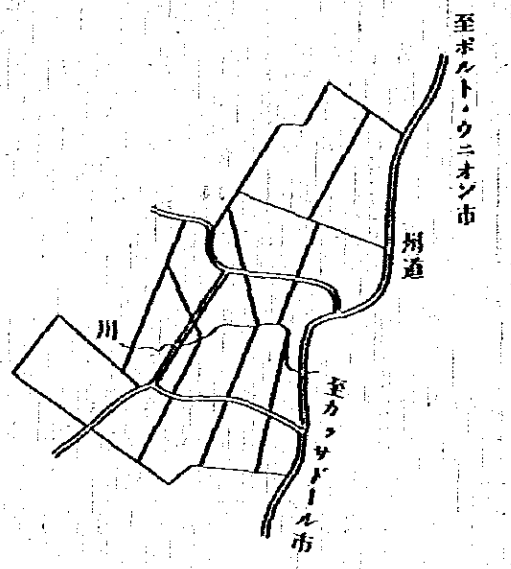
主作目	トマト，リンゴ，ニンニク
形態	トマト，ニンニク，タマネギ等の蔬菜を主体に，リンゴ，スモモ等の果樹及びカーネーション，グラジオラス等の花卉を組み合わせた営農
農機具の普及状況	トラック1.5台，トラクター1.3台
家畜飼育頭数	牛1.0頭

	営農援護機関 営農指導	事業団ポルトアレグレ支部，州農業改良普及事務所（ACARESC），国立果樹試験場附属試験センター（ヴィディラ市）があり，カッサドール市に州立農業試験場，また市役所勧業課に州の改良普及技術員が常駐し指導にあたっている。
	金融機関 主作物取扱機関	銀行，事業団 南伯中央産業組合（サンパウロ）

地区略図



移住地略図



(6) バジェー移住地

所在地	リオ・グランデ・ド・スール州バジェー郡フロレンサ村 VILA FLORENSA, MUNICIPIO DE BAGE, ESTADO DO RIO GRANDE DO SUL	
面積	26 ha	
経緯	昭和36年4月バジェー市近郊に分益農として，外人農場に入植し，以来段階的に借地営農にきりかえた4家族が，土地を共同購入し従来の蔬菜単作に果樹を加え，営農を安定させる計画をたて事業団が融資等でバックアップした独立移住地である。	
自然環境	地形	なだらかな波状地形，移住地の境界をなすバジェー川に向って，ゆるやかに傾斜している。
	地質・土壌	赤色プレリー土地帯に位置しているが，暗灰色味をおびた砂壌土である。心土層は白い粘土質で，表土は浅く（40～50cm程度）軽い土で流亡しやすい。保水力も決して強い方でない。特に塩基分が貧弱であるが，PHは5.5～6.5である。
	植生・林相	既成の牧場の一部である。
	気候	高原内陸性の夏乾冬湿がはっきりした気象型である。年平均気温17.7℃，平均最高気温23.6℃，平均最低気温12.5℃，雨量1,414mm，降霜日数65日。
社会環境	主要都市への交通手段	バジェー市中心街まで3km，ポルト・アレグレ市までは370km，全線舗装されている。バジェー市は，ウルグアイ国境より60kmの地点に存在し，軍事上重要性をもち国境守備連隊が配置されている。又，大農場に広く取り囲まれた市で，商業も活況を呈し，また市全体として極めて落ちついた雰囲気をかもしている。市内人口約8万人。
	市場	バジェー市，ポルト・アレグレ市
	地区内道路整備状況	私道であるが，良好な状態である。
	電気	電気は現在導入されていないが，郡役所に申請中。
	飲料水	飲料水は各ロッテに掘抜き井戸を設備している。
	公共施設	移住地内にはないが，バジェー市のものを利用している。

入植戸数及人員（内地）	年度											現在入植者	合計	定着数
	戸数											4	4	3
	人員											18	18	11

主なる出身県名	長崎									合計
戸数	3									3

入植世帯数			入植世帯数 戸数	入植世帯数 人数	農家戸数 戸数	農家戸数 人数
	日本人	居住	3	11	3	
		非居住	—	—	—	
		計	3	11	3	
			—	—	—	

昭和56年3月末現在

分譲状況		
	総面積	26ha
	ロッテ面積	5ha（3ロッテ），11ha（11ロッテ）
	分譲条件および価格	ha当り2,000 Cr$で購入 周辺地価（時価Cr $500,000～1,000,000／ha）

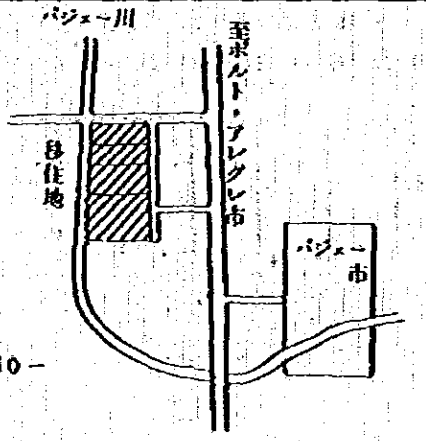
分譲状況	分譲済面積	未分譲面積	道路市街地等利用地	除地
	26ha	—	—	—

分譲状況		
	地権取得	全戸取得済

昭和56年10月現在

農業		
	主作目	ぶどう他の果樹および蔬菜
	農機具の普及状況	耕運機1.2台，発動機2.2台
	家畜飼育頭数	なし
	営農援護機関	
	営農指導	事業団ボルトアレグレ支部州農務局地区改良普及所
	金融機関	銀行，事業団
	主作物取扱機関	パジェー市の目抜き通りで隣日移動朝市があるので直売小売を行うとともに，市内の蔬菜卸売業者に卸売りを行っている。またブドウは一部ボルト・アレグレ卸市場に共同出荷して委託販売を行っている。

移住地略図



(7) クリシューマ（ファシナル）移住地

所在地	サンタ・カタリーナ州クリシューマ郡フォルキリーニャ FORQUILNINIA, MUNICIPIO DE CRICIUMA, ESTADO DO SANTA CATARINA (NUCLEO COLONIAL "FAXINAL")	
面積	100ha	
経緯	クリシューマ郡は，炭坑関係者を中心として人口82,000人（1970年）の州内では屈指の経済成長をなしとげてきた工業地域であるが，近郊に野菜，果樹等の供給地がなく，これらの大部分をサン・パウロ，ポルト・アレグレ方面から移入していた。 そこで移当局はラーモス，イタジャイ，カサドール等協定入植地の例にみられるように，日本人中心の移住地を創設し，生鮮蔬菜類の供給ルートを確立するという構想をもつに至った。 1973年5月，IRASC及び移当局は，従来のように，これを協定移住地として旧JAMICを含めた3者の協定をもって設定することが最良の方法であるとの結論を得，具体的な検討に入った。以降3者の協定によって土地の選定，移住地計画の策定等検討を行った結果1973年12月IRASC，移当局，旧JAMICが協定書に調印し，ここにクリシューマ移住地の誕生を見るに至った。協定にもとづき，移当局は土地購入，ロッテ造成，電気導入，住宅建設，IRASCは住宅建設費の負担，融資斡旋，旧JAMICは日本人入植者の選考を夫々担当し1974年6月入植を開始した。	
自然環境	地形	低いなだらかな丘陵と低地が小枝状形に続く熟成牧場地帯の一部
	植生・林相	ユーカリの植林が点在するほかは全面が牧野となっている。
	気候	多雨温暖気候 平均最高気温 25.5℃，平均最低気温 13.6℃，平均相対湿度 81.0%， 降雨量 1,558.4mm
社会環境	主要都市への交通手段	移住地からクリシューマ市の中心までは舗装された州道24km，クリシューマ市よりBR101号線でポルト・アレグレ市までは30km，フロリアノ・ポリス市までは210km，サン・パウロ市は700km，定期直通バスが利用できる。 クリシューマ市 人口 8万人 距離 24km（州道） ツバロン市 人口 7万人 50km（州道） フロリアノ・ポリス市 人口 18万人 210km（BR101号） ポルト・アレグレ市 人口 117万人 330km（ 〃 ）
	市場	クリシューマを中心とする近隣都市を対象に野菜を供給。

地区内道路整備状況	クリシューマ市からバカリア市（リオ・グランデ・ド・スール州）に通ずる州道簡易舗装が移住地の境界線を通っている。
電気	電気は創設と同時に郡により導入されている。
飲料水	飲料水は郡当局により掘抜き井戸から，電力上水道で各戸に給水。水質良好。
公共施設	移住地内に公共施設はないが，クリシューマ市にあるものを利用，クリシューマ市内に4病院（600ベット），移住地より1kmの地点に小学校あり，7km地点のフォルキリーニャ村に小，中学校がある。また，クリシューマ市には高校から単科大学まで完備している。事業団援護により中型トラクター2台を共同利用中。

入植戸数と人員（現地入植）	年度				合計	定着数
	戸数				8	8
	人員				25	30

主なる出身県名	千葉	鹿児島	福岡	北海道	山口	合計
戸数	2	2	2	1	1	8

入植世帯数			入植世帯数		農家戸数	
			戸数	人数	戸数	人数
	日本人	居住	7	27	7	
		非居住	1	3	1	
		計	8	30	8	
	現地人		2	2	2	

昭和56年3月末現在

分譲状況	
総面積	100ha
ロッテ面積	1ロッテ価格　50,000クルゼイロ（60㎡住宅付）
分譲条件	頭金なし，2年据置　8年々賦 利息，価値修正等郡負担
地権取得	全戸地権発給済みで，現在，州立銀行に担保として設定されている。 昭和56年10月現在

農業	
主作目	トマト，キュウリ，チシャ
形態	トマト，キュウリ，チシャ，ニンジン等蔬菜の専業，ブドウ，柑橘，桃等が植え付けられている。
農機具の普及状況	トラック0.3台，　耕運機1.2台，動噴0.5台

農業	家畜飼育頭数	豚 1.5 頭
	営農援護機関	
	営農指導	事業団ボルトフレグレ支部農業改良普及協会（ACARESC）
	金融機関	銀行，事業団
	主作物取扱機関	個人出荷

(8) サン・ジョアキン移住地

所在地	サンタ・カタリーナ州サン・ジョアキン郡 MUNICIPIO DE SÃO JOAQUIN, ESTADO DO SANTA CATALINA	
面積		
経緯	サン・パウロ市コチア産業組合では，古くから国産リンゴ生産について多大の関心をもっていたがラーモス，カフサドール等の移住地でのリンゴ生産実績を踏まえ，組合の拡張事業の一部として入植地区を買収，1ロッテ25 haに分割，主として有力組合員の2，3男分家用地として分譲したものである。 この間の土地代，住宅代にかゝわる融資は，中央銀行から州立銀行に手当された原資による地域開発投融資々金によってまかなわれた。なお同移住地は一般にはサン・ジョアキン，コチア村とよばれているが，郡の積極的なコロニア誘致運動に呼応したもので，道路，電化等の諸環境整備には，郡独自の相当な援助をうけているようである。入植開始は昭和49年からである。	
自然環境	地形	傾斜4～5°の丘陵地帯で，ジェラル山脈の頂原野の一部である。各所に散在する低盆地沿いには無数の自然湧水源があり低地部はかなり湿潤である。
	地質・土壌	玄武岩と結晶片岩を母岩とする壌土，埴壌土が中心でPHは4.5～6度で酸性はかなり強い。鉄，アルミナが比較的多く，燐酸の肥効は低い。石塊が多いので，樹木営農以外には適していない。
	植生・林相	町に近く便利な所で，パラナ松の伐採後相当の年月がたっているようで，現在までは殆んど完全な自然牧場として利用され，極く一部の急傾斜地以外は残存森林なく，草地は未本科の自然牧草である。
	気候	1965～1975年の11ケ年平均（サン・ジョアキン果樹試験場—1,418m調べ） 年平均気温　13.9℃，平均最高気温　18.8℃，平均最低気温　9℃ 降雨量　1553mm
社会環境	主要都市への交通手段	植民地～サン・ジョアキン市間5 kmは砂利敷州道。 サン・ジョアキン市～ラージェス市80 kmは州道（将来アスファルト道路化計画中） ～ボン・ジャルジン・ダ・セーラ町50 kmは砂利敷州道 ～ボン・レテーロ町50 kmは砂利敷州道 サン・ジョアキン市～ラージェス市間定期バス1日4往復 サン・ジョアキン市　人口　1万人 ボン・ジャルジン・ダ・セーラ町　人口　2,000人 ボン・レテーロ町　人口　3,000人 ラージェンス市　人口　12万人

社会環境	市場	果樹，輸送園芸産物は殆んど全部サンパウロ中央市場向け出荷され，コチア産組の委託販売である。（全員が組合員である。）
	地区内道路整備状況	郡役所で必要に応じて補修している。
	電気・飲料水	農村電化資金で大部分電化済，飲料水は各農家の個人掘抜井戸を利用。
	公共施設	サン・ジョアキン市にコチア産組倉庫 移住地内に医療機関，教育施設なし。サン・ジョアキン市に総合病院（入院設備付）小，中，高校あり。大学はラージェス市に商短単科大学がある。

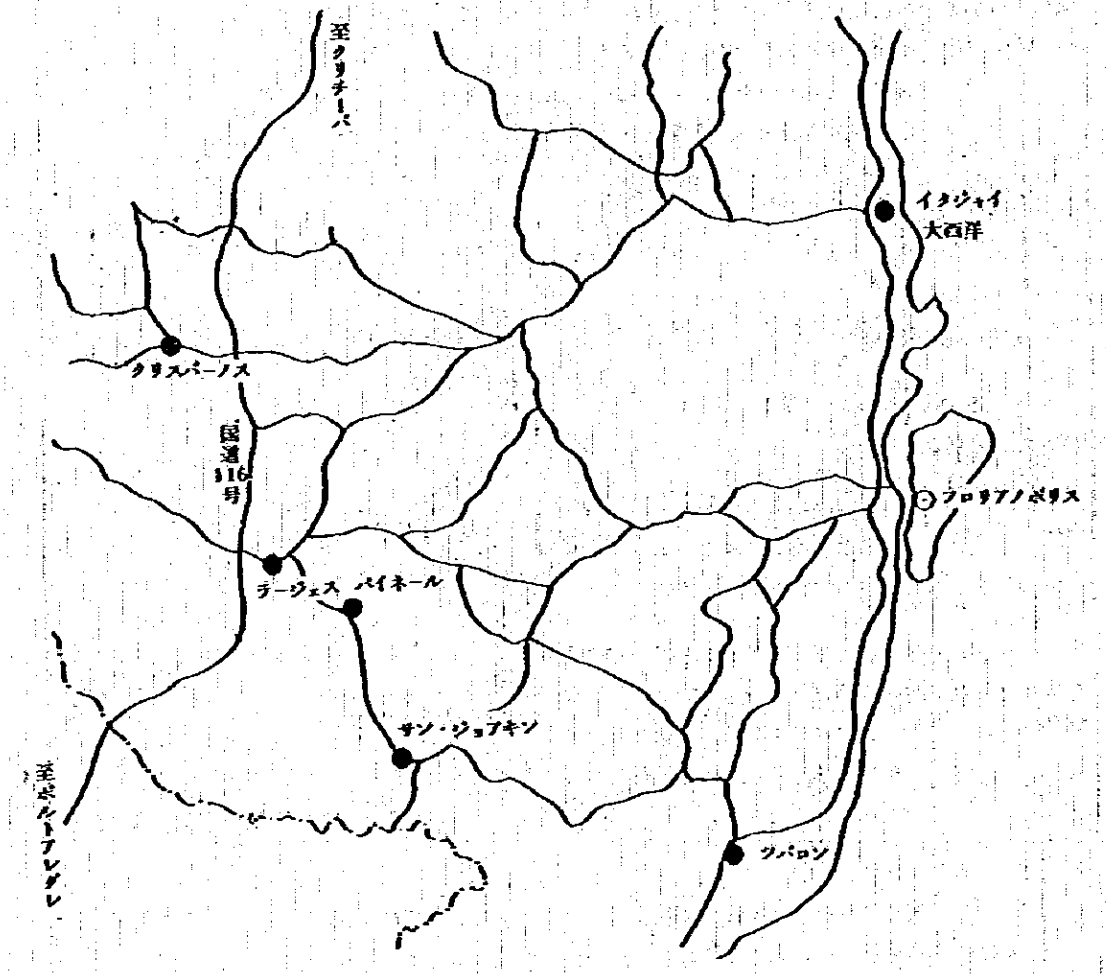
主なる出身県名	ブラジル生れ	高知	福島	その他	合計
戸数	14	4	2	15	35

入植世帯数	サンジョアキン	入植世帯数 戸数	入植世帯数 人数	農家戸数 戸数	農家戸数 人数
	日本人 居住	40	200	40	
	日本人 非居住	—	—	—	
	日本人 計	40	200	40	
	現地人	—	—	—	

昭和56年3月末現在

分譲状況	総面積	不詳
	分譲条件及び価格	確認済（確定入植者20戸分は712.57haとなっている。1戸平均35.63ha） 分譲価格はha当り約 5,000 ～ 6,000クルゼイロス，長期銀行の州立銀行 利息は年15%，据置3年，8ヶ年払いである。
	地権取得	地権発給済，現在，州立銀行に担保として設定されている。 昭和56年10月現在
農業	主作目	ワンゴ
	形態	入植地設定計画に沿って殆んど大部分がワンゴ主体農家で，果樹園規模も5,000本～10,000本と比較的大きく半企業的経営といえる。
	営農援護機関	
	営農指導	コチア産業組合 サン・ジョアキン果樹試験場，州農業普及師（ACARESC）
	金融機関	銀行，コチア農業信用組合

地区略図


至クリチーバ
イタジャイ
大西洋
クリスバーノス
国道116号
フロリアノポリス
テージェス
バイネール
サン・ジョアキン
至ポルトアレグレ
クバロン

(9) イタプアン移住地

所在地	リオ・グランデ・ド・スール州ヴィアモン郡イタプアン村 VILA ITAPUÃ, MUNICIPIO DE VIAMÃO, ESTADO DO RIO GRANDE DO SUL	
面積	455ha（但し日本人入植地区　19ロッテ）	
経緯	昭和50年度，イポチ移住地ぶどう祭りに招待した州農務長官より，上記地区で，かつて州政府が造成した農地解放植民地の一部に未分譲地があるので，若し日本人農家が入植するのであれば，これを分譲してもよいとの下話があった。この情報は，いち早くポルト・アレグレ市郊外の借地そさい農家に伝わり，入植したいとするグループが自然に出来上り，直接州との話合いの結果漸次入植するに至った。	
自然環境	地形	傾斜丘地から水平湿地となっており，この湿地区は延々と約8.5km続いて，グッイバ川となっている。
	地質・土壌	傾斜丘地区は，全くの砂地で，降雨による表土流失が著しく，地味は劣悪な状態にある。 低湿地は，グッイバ川に対して湾形になった部分に，川の浮遊物が多年吹きよせられて集積されて出来たのではないかと想像される地質である。 地下水位が非常に高く，溝を掘るとそこに殆んどそのまま湧水するが，これは乾湿期の差，川の水位の上下とも密接な関係があるように思われる。
	植生・林相	丘地は貧弱な矮養木草原で，丁度セラードを思わせるものがある。現在殆んど切りつくされているので，ひどい侵蝕地となっている。草生はまばらな禾本科植物が主である。低湿地はカヤツリグサ，チリリカとよばれる湿生多年草が主である。
	気候	最寄りのポルト・アレグレ市（65km）の平均気候は次のとおりで，概ねこの数値に近いように思われるが，相対湿度がより高く，更に河面からの風が比較的強いので，冬期にも殆んど目に映るような降霜がないのが特徴となっている。 年平均気温　19.3℃　年降雨量　1,322mm 平均最高気温　24.5℃　降雨日数　123日 平均最低気温　14.5℃
社会環境	主要都市への交通手段	ポルト・アレグレ市より約30kmのラミ地区まではアスファルト道路で，あとの35kmは簡易舗装道路である。入植地より5kmの地点からポルト・アレグレ向けバス1日数往復，ラミ地区からは30分おきにバス便がある。 ポルト・アレグレ市　65km　人口　100万人　州首都 ヴィアモン市　30km　人口　3万人
	市場	ポルト・アレグレ中央卸市場

社会環境	地区内道路整備状況	州農務局のコロニア管理事務所で必要により補修しているが，砂利投入をせず地ならしだけのため，強雨時後は通行にかなり苦心している。
	電気	現在電気はない。
	飲料水	各自の手堀井戸であるが，水質は余りよくない。
	公共施設	地区内にはなし。 移住地より3kmの地点に農村小学校がある。（4年課程） その後はイタブアン町に本校がある。 中学以上は殆んどベレン・ノーボ村又はポルト・アレグレ市。 医療関係は主としてポルト・アレグレ市又はベレン・ノーボ村（20km）。

入植世帯数

		入植世帯数 戸数	入植世帯数 人数	農家戸数 戸数	農家戸数 人数
日本人	居住	13	73	13	
	非居住	4	18	4	
	計	17	91	17	
		—	—	—	

昭和56年3月末現在

分譲状況	総面積	455ha（但し日本人入植地区　19ロッテ）
	ロッテ面積	平均23.94ha
	分譲状況	譲渡
	地権取得	据置なし，10年々賦で，土地代の完済をもって地権が与えられる。 すでに地権を取得したものもある。 昭和56年10月現在
農業	主作目	チシャ，トマト，キュウリ，ニンジン，カリフラワー
	形態	チシャ，トマト，キュウリ，ニンジン等の蔬菜専業。柑橘類，カキ等の果樹類が若干植え付けられている。
	農機具の普及状況	トラック1.0台，トラクター0.4台，耕運機23台
	家畜飼育頭数	豚0.6頭
	営農援護機関	
	営農指導	事業団
	金融機関	事業団，銀行

アルゼンティン共和国

VI．ブエノス・アイレス支部

アルゼンティン共和国

Ⅵ ブエノス・アイレス支部

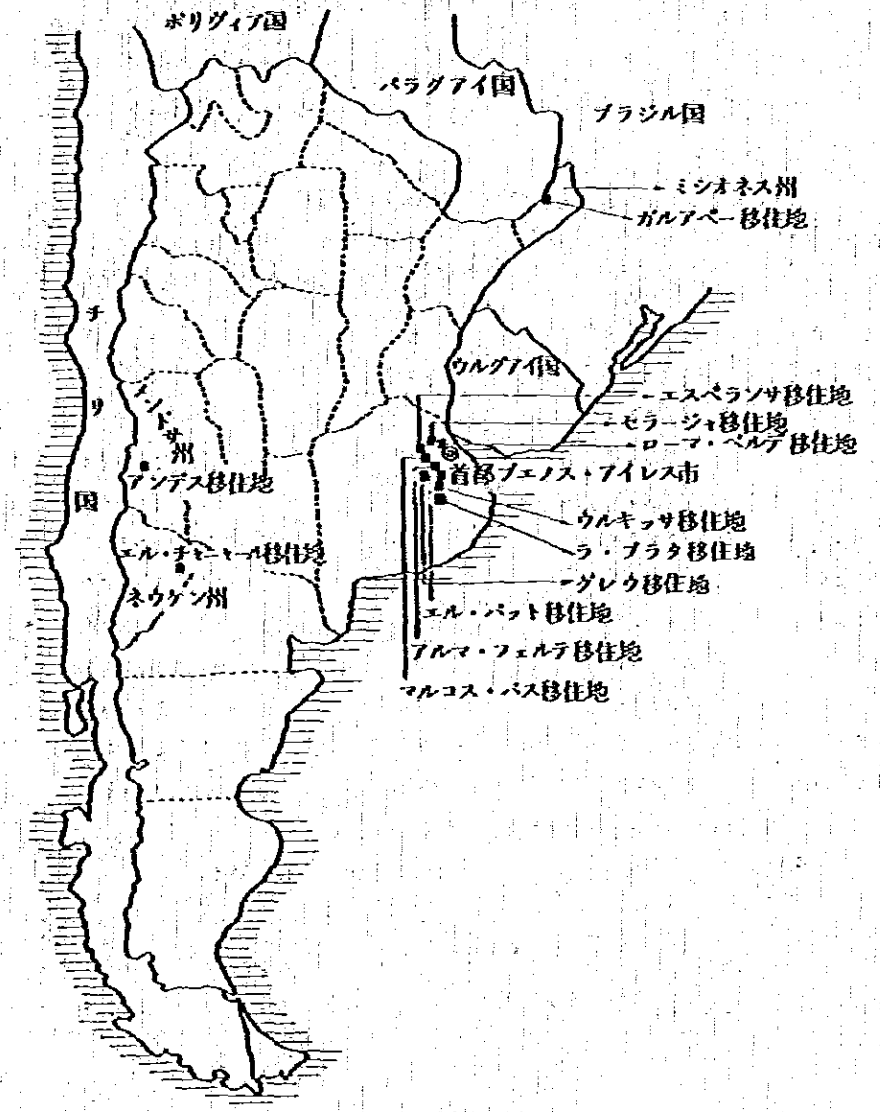
支部機構

ブエノス・アイレス支部（ブエノス・アイレス市）
- 総務課
- 業務一課
- 業務二課

- ガルアペー事業所（ガルアペー移住地）
- アンデス事業所（アンデス移住地）
- アルゼンティン園芸センター（グレウ移住地）

管　轄

アルゼンティン国全域



1. アルゼンティン国の基礎指標

面 積	独立年月日	政 体	宗 教	言 語	民族または人種構成	通 貨
km 2,791,810	1861.7.9	立憲共和制	カトリック（国教）	スペイン語	スペイン・イタリー等欧州移民（97%）	Peso(P) =100 (centcubs)

1. 人口，人口密度・人口増加率

	1960	1970	1971	1972	1973	1974	1975	1976	1977	1978	1979	1980
人口（千人）	20,850	23,748	24,070	24,390	24,720	25,060	25,380	25,720	26,000	26,390	27,241	27,863
人口密度								09				10
人口増加率	←			14%				→				

2. 国民所得

PBI POR HABITANTE

PERIODO	Millones de US$ de 1970	Poblacion en millones	Ingreso per capita en US$ constantes de 1970
1970	23,522	234	10052
1971	24,375	238	10242
1972	24,759	242	10231
1973	25,599	247	10364
1974	27,257	251	10859
1975	27,018	255	10595
1976	26,950	260	10365
1977	28,577	265	10784
1978	27,467	269	10211
1979	29,338	274	10707
1980	29,652	279	10628
1981(e)	27,873	284	9814

(e) cifras estimadas

出所：経済省　但，1970年ドルレートを基準としている。